

工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價權ハ配當加入ノ時裁判所ニ於テ撰任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ要ス

第三百二十九條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第三百四十條 不動産賣買ノ先取特權ハ賣買契約ト同時ニ未タ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルニ因リテ其効力ヲ保存ス

第三百四十一條 先取特權ノ効力ニ付テハ本節ニ定メタルモノ、外抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 質權

第一節 總則

第三百四十二條 質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取タル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四十三條 質權ハ讓渡ヌコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス

第三百四十四條 質權ハ設定ノ債權者ニ其目的物ヲ引渡ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ生ス

第三百四十五條 質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第三百四十六條 質權ハ元本、利息、違約金、質權實行ノ費用、質物保存ノ費用及ヒ債務ノ不履行又ハ質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行為ノ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十七條 質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百四十八條 質權者ハ其ノ權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲ササレハ生セサルヘキ不可抗力ニヨル損失ニ付テモ亦其責ニ任ス

第三百四十九條 質權設定者ハ設定行為又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ取得セシメ其他法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ約スルコトヲ得ス

第三百五十條 第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス

第三百五十一條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第二節 動産質

第三百五十二條 動産質權者ハ繼續シテ質物ヲ占スルニ非サレハ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十三條 動産質權者カ質物ノ占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リテノミ其質物ヲ回復スルコトヲ得

第三百五十四條 動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限リ鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ヲ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ債權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス

第三節 不動産質

第三百五十六條 不動産質權者ハ質權ノ目的タル不動産ノ用方ニ從ヒ其使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七條 不動産質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他不動産ノ負擔ニ任ス

第三百五十八條 不動産質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百五十九條 前三條ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用ス

第三百六十條 不動産ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ

以テ不動産質ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス

不動産質ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三百六十一條 不動産質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用ス

第四節 權利質

第三百六十二條 質權ハ財産權ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

前項ノ質權ニハ本節ノ規定ノ外前三節ノ規定ヲ準用ス

第三百六十三條 債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權ノ證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ生ス

第三百六十四條 指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第二債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セズ

第三百六十五條 記名ノ社債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ社債ノ讓渡ニ關スル規定ニ從ヒ會社ノ帳簿ニ質權ノ設定ヲ記入スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十六條 指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ其證書ニ質權ノ設定

ヲ裏書スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十七條 質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得
債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對スル部分ニ限り之ヲ取
立ツルコトヲ得

右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權者ハ第三債
務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ質權ハ供託金ノ上
ニ存在ス

債權ノ目的物カ金錢ニ非サルトキハ質權者ハ辨濟トシテ受ケタル物ノ上ニ質權ヲ
有ス

第三百六十八條 質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リ
テ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第十章 抵當權

第一節 總則

第三百六十九條 抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務ノ擔保ニ供
シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス
地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本章ノ
規定ヲ準用ス

第三百七十條 抵當權ハ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除ク外其目的タル不動産ニ附加
シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及フ但設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及ヒ第四百十二

條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此限ニ在ラス

第三百七十一條 前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セス但抵當不動産ノ差押アリタル
後又ハ第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタル後ハ此限ニ在ラス

第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其後一年內ニ抵當不動産ノ
差押アリタル場合ニ限り前項但書ノ規定ヲ適用ス

第三百七十二條 第二百九十六條、第三百四條及ヒ第三百五十一條ノ規定ハ抵當權ヲ
準用ス

第二節 抵當權ノ効力

第三百七十三條 數個ノ債權ヲ担保スル爲メ同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シタ
ルトキハ其抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

第三百七十四條 抵當權者カ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其滿
期ト爲リタル最後ノ二年分ニ付テノミ其抵當權ヲ行フコトヲ得但以前ノ定期金ニ
付テモ滿期後特別ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ妨ケス

第三百七十五條 抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲シ又同一ノ債務者
ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權若クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄ス

ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ抵當權者カ數人ノ爲メニ其抵當權ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ノ利益ヲ受クル者ノ權利ノ順位ハ抵當權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依ル

第三百七十六條 前條ノ場合ニ於テハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ

抵當權ノ處分ヲ通知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者保證人、抵當權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受クル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對權スルコトヲ得ス
第三百七十七條 抵當不動産ニ付キ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ抵當權者ノ請求ニ應シテ之ニ其代價ヲ辨濟シタルトキハ抵當權ハ其第三者ノ爲メニ消滅ス

第三百七十八條 抵當不動産ニ付キ所有權地上權、又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵當權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ濫除スルコトヲ得
第三百七十九條 主タル債務者、保證人及ヒ其承繼人ハ抵當權ノ濫除ヲ爲スコトヲ得ス
第三百八十條 停止條件附第三取得者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ抵當權ノ濫除ヲ爲ス

コトヲ得ス

第三百八十一條 抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ第三百七十八條ニ掲ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十二條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受クルマテハ何時ニテモ抵當權ノ濫除ヲ爲スコトヲ得

第三取得者カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ一ヶ月内ニ次條ノ送達ヲ爲スニ非サレハ抵當權ノ濫除ヲ爲スコトヲ得ス

前條ノ通知アリタル後ニ第三百七十八條ニ掲ケタル權利ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得者カ濫除ヲ爲スコトヲ得ル期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十三條 第三取得者カ抵當權ヲ濫除セント欲スルトキハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ書面ヲ送達スルコトヲ要ス

一 受得ノ原因、年月日、讓渡人及ヒ受得者ノ氏名、住所、抵當不動産ノ性質、所在、代價其他取得者ノ負擔ヲ記載シタル書面

二 抵當不動産ニ關スル登記簿ノ謄本但既ニ消滅シタル權利ニ關スル登記ハ之ヲ掲クルコトヲ要セス

三 債權者一ヶ月内ニ次條ノ規定ニ從ヒ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ハ第一號ニ掲ケタル代價又ハ特ニ指定シタル金額ヲ債權ノ順位ニ從ヒテ辨濟

又ハ供託スヘキ旨ヲ記載シタル書面

第三百八十四條 債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一ヶ月内ニ増價競賣ヲ請求セザルトキハ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

増價競賣ハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ十分ノ一ノ増價ヲ以テ自ラ其不動産ヲ買受クヘキ旨ヲ附言シ第三取得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第三百八十五條 債權者増價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ期間内ニ債務者及ヒ抵當不動産ノ讓渡人ニ之ヲ要ス

第三百八十六條 増價競賣ヲ請求シタル債權者ハ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其請求ヲ取消スコトヲ得ス

第三百八十七條 抵當權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ヨリ債務ノ辨濟又ハ滌除ノ通知ヲ受ケタルトキハ抵當不動産ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十八條 土地及ヒ其上ニ存スル建物カ同一ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其土地又ハ建物ノミナ抵當ト爲シタルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但地代ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ム

第三百八十九條 抵當權設定ノ後其設定者カ抵當地ニ建物ヲ築造シタルトキ抵當權

者ハ土地ト共ニ之ヲ競賣スルヲ得其優先權ハ土地ノ代價ニ付ノミ之ヲ行フヲ得

第三百九十條 第三取得者ハ競賣人ト爲スコトヲ得

第三百九十一條 第三取得者カ抵當不動産ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出シタルトキハ第三百九十六條ノ區別ニ從ヒ不動産ノ代價ヲ以テ最モ先ニ其償還ヲ受クルヲ得

第三百九十二條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數個ノ不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ全時ニ其代價ヲ配當スヘキトキハ其各不動産ノ價格ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツ

或不動産ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其代價ニ付キ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ルマテ之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第三百九十三條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

第三百九十四條 抵當權者ハ抵當不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵當不動産ノ代價ニ先テ他ノ財産ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用

セズ但他ノ各債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受カタル爲メ之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十五條 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユサル貸借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得但其貸借カ抵當權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因リ其解除ヲ命スルコトヲ得

第三節 抵當權ノ消滅

第三百九十六條 抵當權ハ債務者及ビ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ時効ニ因リテ消滅セズ

第三百九十七條 債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動産ニ付キ取得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ抵當權ハ之ニ因リ消滅ス

第三百九十八條 地上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者カ其權利ヲ擲棄シタルモ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三編 債權

第一章 總則

第一節 債權ノ目的

第三百九十九條 債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第四百條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四百一條 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ法律行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ債務者ハ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ完了シ又ハ債權者ノ同意ヲ得テ其給付スヘキ物ヲ指定シタルトキハ爾後其物ヲ以テ債權ノ目的トス

第四百二條 債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得但特種ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタルトキハ此限ニ在ラス

債權ノ目的タル特種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ強制通用ノ効力ヲ失ヒタルトキハ債務者ハ他ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ外國ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百三條 外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得

トス

第四百五條 利息カ一年分以上延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ルコトヲ得

第四百六條 債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リテ定マルヘキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬ス

第四百七條 前條ノ選擇件ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ行フ前項ノ意思表示ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第四百八條 債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲サ、ルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

第四百九條 第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第四百十條 債權ノ目的タルヘキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其殘存スルモノニ付キ存在ス

第四百十一條 選擇ハ債權發生ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第二節 債權ノ効力

第四百十二條 債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第四百十三條 債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサルトキハ其債權者ハ履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第四百十四條 債務者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其強制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許サ、ルトキハ此限ニ在ラス

債務ノ性質カ強制履行ヲ許サ、ル場合ニ於テ其債務カ作爲ヲ目的トスルトキハ債權者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但法律行爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ代フルコトヲ得

不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ除却シ且將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四百十五條 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲サ、ルキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ亦同シ

第四百十六條 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生ヌヘキ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百十七條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ其額ヲ定ム

第四百十八條 債務ノ不履行ニ關シ債權者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第四百十九條 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辨ト爲スコトヲ得ス

第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得ス
賠償額ノ豫定ハ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨ケス

違約金ハ之ヲ賠償額ノ豫定ト推定ス

第四百二十一條 前條ノ規定ハ當事者カ金錢ニ非サルモノヲ以テ損害ノ賠償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條 債權者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ價額ノ全部ヲ受ケタルトキハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債權者ニ代位ス

第四百二十三條 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニアラス

債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ前項ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但保存行爲ハ此限ニ在ラス

第四百二十四條 債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其行爲ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行爲又ハ轉得ノ當時債權者ニ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ財産權ヲ目的トセサル法律行爲ニハ之ヲ適用セス

第四百二十五條 前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲メ其効力ヲ生ス

第四百二十六條 第四百二十四條ノ取消權ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シタル時ヨ

以二年間之履行ハサルトキハ期効ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十七條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段意思表示ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第二款 不可分債務

第四百二十八條 債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リ不可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲スコトヲ得

第四百二十九條 不可分債務者ノ一人ト其債權者トノ間ニ更改又ハ免除アリタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ債權ノ全部ヲ履行スルコトヲ得但共一人債權者カ其權利ヲ失ハサルハ之ニ分與スヘキ利益ヲ債務者ニ償還スルコトヲ要ス
此他不可分債權者ノ一人ノ行爲又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權者ニ對シ其効力ヲ生セズ

第四百三十條 數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ連帶債務ニ關スル規定ヲ准用ス但第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第四百三十一條 不可分債務カ可分債權ニ變シタルトキハ各債務者ハ自己ノ部分ニ付テノミ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債務者ハ其負擔部分ニ付テノミ履行ノ責任ス

第三款 連帶債務

第四百三十二條 數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ全時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得
第四百三十三條 連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行爲ノ無効又ハ取消ノ原因ノ存スル爲メ他ノ債務者カ債務ノ効力ヲ妨クルコトナシ

第四百三十四條 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其効力ヲ生ス

第四百三十五條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

第四百三十六條 連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其債務者カ相殺ヲ援用シタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス
右ノ債權ヲ有スル債務者カ相殺ヲ援用セサル間ハ其債務者ノ分擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ニ於テ相殺ヲ採用スルコトヲ得

第四百三十七條 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔

部分ニ付テノミ他ノ債務者ノ利益ヲ爲メニモ其効力ヲ生ス
第四百三十八條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其債務者ハ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百三十九條 連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時効カ完成シタルトキ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者モ亦其義務ヲ免ル

第四百四十條 前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ其効力ヲ生セス

第四百四十一條 連帶債務者ノ全員又ハ其事ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第四百四十二條 連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルトキハ他ノ債務者ニ對シ其客自ノ負擔部分ニ付キ求債權ヲ有ス

前項ノ求債ハ辨濟其他免責アリタル日以後ノ法定利息及ヒ避クルコトヲ得サリシ費用其他ノ損害ノ賠償ヲ包含ス

第四百四十三條 連帶債務者ノ一人ヲ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知セヌシテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ノ得タル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ其負擔部分ニ付

之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得但相殺ヲ以テ之ニ對抗シタルトキハ過失アル債務者ハ債權者ニ對シ相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

連帶債務者ノ一人カ辨濟其他自己ノ出捐ヲ以テ共全ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知スルコトヲ忘リタルニ因リ他ノ債務者カ善意ニテ債務者ニ辨濟ヲ爲シ其他有債ニ免責ヲ得タルトキハ其債務者ハ自己ノ辨濟其他免責ノ行爲ヲ有効ナリシモノト看做スルコトヲ得

第四百四十四條 連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求債者及ヒ他ノ資力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分ニ應シテ之ヲ分割ス但求債者ニ過失アルトキハ他ノ債務者ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス
第四百四十五條 連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者中ニ辨濟ノ資力ナキ者アルトキハ債權者ハ其無資力者カ辨濟スルコト能ハサル部分ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者カ負擔スヘキ部分ヲ負擔ス

第四款 保証債務

第四百四十六條 保証人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス

第四百四十七條 保証債務ハ主タル債務ニ關スル利息、違約金、損害賠償其他總テ其

債務ニ從タルモノヲ包含ス

保證人ハ其保證債務ニ付テノミ違約金又ハ損害賠償ノ額ヲ約定スルコトヲ得

第四百四十八條 保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體様ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債務ノ限度ニ短縮ス

第四百四十九條 無能力ニ因リテ取消スコトヲ得ヘキ債務ヲ保證シタル者カ保證契約ノ當時其取消ノ原因ヲ知リタルトキハ主タル債務者ノ不履行又ハ其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ有スル獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス

第四百五十條 債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

- 一 能力者タルコト
- 二 辨濟ノ資力ヲ有スルコト
- 三 債務ノ履行地ヲ管轄スル控訴院ノ管轄内ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコト

保證人ヲ前項第二號又ハ第三號ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキハ債權者ハ前項ノ條件ヲ具備スル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ債權者カ保證人ヲ指名シタル場合ニハ之ヲ適用セス
第四百五十一條 債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキ

ハ他ノ擔保ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得

第四百五十二條 債權者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其ノ行方カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十三條 債權者カ前條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ保證人カ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリテ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ債權者ハ先ツ主タル債務者ノ財産ニ付キ執行ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十四條 保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス

第四百五十五條 第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ニ依リ保證人ノ請求アリタルニ拘ハラズ債權者カ催告又ハ執行ヲ爲スコトヲ怠リ其後主タル債務者ヨリ全部ノ辨濟ヲ得サルトキハ保證人ハ債權者カ直チニ催告又ハ執行ヲ爲セハ辨濟ヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其義務ヲ免ル

第四百五十六條 數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ第四百二十七條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十七條 主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其他時効ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其効力ヲ生ス

保証人ハ主タル債務者ノ債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第四百五十八條 主タル債務者カ保証人ト連帶シテ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ヲ準用ス

第四百五十九條 保証人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保証ヲ爲シタル場合ニ於テ過失ナクシテ債權者ニ辨濟スヘキ裁判言渡ヲ受ケ又ハ主タル債務者ニ代ハリテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ其保証人ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第四百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十條 保証人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保証ヲ爲シタルトキハ其保証人ハ左ノ場合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得

- 一 主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加入セザルトキ
- 二 債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保証契約ノ後債權者カ主タル債務者ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保証人ニ對抗スルコトヲ得ス
- 三 債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ但其最長期ヲモ確定スルコト能ハサル場合ニ於テ保証契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

第四百六十一條 前二條ノ規定ニ依リ主タル債務者カ保証人ニ對シテ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケタル間ハ主タル債務者ハ保証人ヲシテ擔保ヲ

合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケタル間ハ主タル債務者ハ保証人ヲシテ擔保ヲ

供セシメ又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ主タル債務者ハ供託ヲ爲シ、擔保ヲ供シ又ハ保証人ニ免責ヲ得セシメテ其賠償ノ義務ヲ免ルコトヲ得

第四百六十二條 主タル債務者ノ委託ヲ受ケシテ保証ヲ爲シタル者カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保証ヲ爲シタル者ハ債務者カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ求償權ヲ有ス但主タル債務者カ求償ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ保証人ハ債權者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百六十三條 第四百四十三條ノ規定ハ保証人ニ之ヲ準用ス

保証人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保証ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保証ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付求償權ヲ有ス

第四百六十五條 數人ノ保証人アル場合ニ於テ主タル債務者カ不可分ナル爲メ又ハ各

保證人カ全額ヲ辨濟スヘキ特約アル爲メ一人ノ保證人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルハ第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ヲ準用ス前項ノ場合ニ非スシテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百六十二條ノ規定ヲ準用ス

第四節 債權ノ讓渡

第四百六十六條 債權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十七條 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十八條 債務者カ異議ヲ留メスシテ前條ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ拂渡シタル者アルトキハ之ヲ取返シ又ハ讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ得

妨ケス

讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マルトキハ債務者ハ其通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得

第四百六十九條 指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ノ眞偽ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其債務ヲ負フコトナシ但債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ辨濟ハ無効トス

第四百七十一條 前條ノ規定ハ證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十二條 指圖債權者ハ其證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除ク外原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五節 債權ノ消滅

第一款

辨濟

第四百七十四條 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質カ之ヲ許サ

サルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタルハ此限ニ在ラス

利害ノ關係ヲ有セサル第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十五條 辨濟者カ他人ノ物ヲ式渡シタルハ更ニ有効ナル辨濟ヲ爲スニ非

サレハ其物ヲ取戻スルコトヲ得ス

第四百七十六條 讓渡ノ能力ナキ所有者カ辨濟トシテ物ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於

テ其辨濟ヲ取消シタルトキハ其所有者ハ更ニ有効ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物

ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十七條 前二條ノ場合ニ於テ債務者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消

費シ又ハ讓渡シタルトキハ其辨濟ハ有効トス但債務者カ第三者ヨリ賠償ノ請求ヲ

受ケタルトキハ辨濟者ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百七十八條 債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシトキニ限り

其効力ヲ有ス

第四百七十九條 前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟

ハ債務者カ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其効力ヲ有ス

第四百八十條 受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做ス但辨濟者カ其

權限ナキコトヲ知リタルトキ又ハ過失ニ依リテ之ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラ

ス

第四百八十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債務者ニ辨濟ヲ爲シタ

ルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ第三

債務者ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第三債務者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第四百八十二條 債務者カ債權者ノ承諾ヲ以テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付

ヲ爲シタルトキハ其給付ハ辨濟ト同一ノ効力ヲ有ス

第四百八十三條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ

時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百八十四條 辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキハ特定物ノ引渡

ハ債權發生ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ辨濟ハ債權者ノ現時

ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百八十五條 辨濟ノ費用ニ付キ別段ノ意思表示ナキハ其費用ハ債務者之ヲ負

擔ス但債權者カ住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ増加シタルハ其増

加額ハ債權者之ヲ負擔ス

第四百八十六條 辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シテ受領證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條 債權ノ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ

其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十八條 債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數個ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ辨濟トシテ提供シタル給付カ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ辨濟者ノ給付ノ時ニ於テ其辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ指定スルコトヲ得。辨濟者カ前項ノ指定ヲ爲ササルトキハ辨濟受領者ハ其受領ノ時ニ於テ其辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但辨濟者カ其充當ニ對シテ直チニ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス。

前二項ノ場合ニ於テ辨濟ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス。
第四百八十九條 當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲ササルトキハ左ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ充當ス。

- 一 總債務中辨濟期ニ在ルモノト辨濟期ニ在ラサルモノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先ニス
- 二 總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノヲ先ニス
- 三 債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益相同シキトキハ辨濟期ノ先ツ至リタルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス
- 四 前二號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ應ジテ之ヲ充當ス

第四百九十條 一個ノ債務ノ辨濟トシテ數個ノ給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其ノ債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十一條 債務者カ一個又ハ數個ノ債務ニ付キ元本ノ外利息及ヒ費用ヲ拂フヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ順次ニ費用利息及ヒ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第四百八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四百九十二條 辨濟ノ提供ハ其提供ノ時ヨリ不履行ニ因リテ生スヘキ一切ノ責任ヲ免レシム

第四百九十三條 辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但債權者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ル

第四百九十四條 債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ

第四百九十五條 供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所

ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス
供託者ハ遲滞ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十六條 債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有効ト宣告シタル判決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テ供託ヲ爲サザリシモノト看做ス

前項ノ規定ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セス
第四百九十七條 辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞

アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第四百九十八條 債務者カ債權者ノ給付ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其給付ヲ爲スニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第四百九十九條 債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタルモノハ其辨濟ト同時ニ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

第四百六十七條ノ規定前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百條 辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス

第五百一條 前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償

ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍内ニ於テ債權ノ効力及ヒ擔保トシテ其債權者カ有セム一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從フコトヲ要ス

一 保證人ハ豫メ先取特權不動産質權又ハ抵當權ノ登記ニ其他位ヲ記シタルニ非サレハ其先取特權不動産質權又ハ抵當權ノ目的タル不動産ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

二 第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セス

三 第三取得者ノ一人ハ各不動産ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

四 前號ノ規定ハ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス

五 保證人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非サレハ債權者ニ代位セス但自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキハ保證人ノ負担部分ヲ除キ其殘額ニ付キ各財產ノ價格ニ應スルニ非サレハ之ニ對シテ代位ヲ爲スコトヲ得ス

右ノ場合ニ於テ其財産カ不動産ナルトキハ第一號ノ規定ヲ準用ス

第五百二條 債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シタル價額

ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ノミ之ヲ請求スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル價額及ヒ其利息ヲ償還スルコトヲ要ス

第五百三條 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ニ關スル證書及ヒ其占有ニ在ル擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其代位ヲ記入シ且代位者ヲシテ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムルコトヲ要ス

第五百四條 第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲナスヘキ者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ爲ヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ル

第二款 相殺

第五百五條 二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六條 相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲シ但シ其意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス

前項ノ意思表示ハ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ遡リテ其効力ヲ生ス

第五百七條 相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但相殺ヲ爲ス當事者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五百八條 時効ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

第五百九條 債務カ不法行爲ニ因リテ生シタルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十條 債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ其後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十二條 第四百八十八條乃至第四百九十一條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

第三款 更改

第五百十三條 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス

條件附債務ヲ無條件債務トシ無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務

ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スル亦同シ
第五百十四條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲
スコトヲ得但舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十五條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ
之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十六條 第四百六十八條第一項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ之ヲ準用
ス

第五百十七條 更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサ
ル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス

第五百十八條 更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル
質權又ハ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其
承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第四款 免除

第五百十九條 債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其
債權ハ消滅ス

第五款 混同

第五百二十條 債權又ハ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ

第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

第五百二十一條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其効力ヲ失フ

第五百二十二條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其
期間内ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトハ申込者ハ
遲滞ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス申込者カ前項ノ通知ヲ怠
リタルトキハ承諾ノ通知ハ延著セサリシモノト看做ス

第五百二十三條 遲延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得

第五百二十四條 承諾ノ期間ヲ定メスシテ隔地者ニ爲シタル申込ハ申込者カ承諾ノ
通知ヲ受クルニ相當ナル期間之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百二十五條 第九十七條第二項ノ規定ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相
手方カ死亡若クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セス
第五百二十六條 隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス

申込者ノ意思表示又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立ス

第五百二十七條 申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ承諾者ハ遲滞ナク申込者ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

承諾者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ契約ハ成立セザリシモノト看做ス

第五百二十八條 承諾者カ申込ニ條件ヲ附シ其他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾シタルトキハ其申込ノ拒絶ト共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十九條 或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フヘキ旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ對シテ其報酬ヲ與フル義務ヲ負フ

第五百三十條 前條ノ場合ニ於テ廣告者ハ其指定シタル行爲ヲ完了スル者ナキ間ハ前ノ廣告ト同一ノ方法ニ依リテ其廣告ヲ取消スコトヲ得但其廣告中ニ取消ヲ爲サル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但其取消ハ之ヲ知りタル者ニ對シテノミ其効力ヲ有ス
廣告者カ其指定シタル行爲ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルトキハ其取消權ヲ拋棄シタルモノト推定ス

第五百三十一條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アルトキハ最初ニ其行爲ヲ爲シタル者ノミ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス

數人カ同時ニ右ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ各平等ノ割合ヲ以テ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス但報酬カ其性質上分割ニ不便ナルトキ又ハ廣告ニ於テ一人ノミ之ヲ受クヘキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ受クヘキ者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第五百三十二條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ其優等者ノミニ報酬ヲ與フヘキトキハ其廣告ハ應募ノ期間ヲ定メタルトキニ限り其効力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行爲カ優等ナルカハ廣告中ニ定メタル者之ヲ判定ス若シ廣告中ニ判定者ヲ定メザリシトキハ廣告者之ヲ判定ス

應募者ハ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス數人ノ行爲カ同等ト判定セラレタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二款 契約ノ効力

第五百三十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スル迄ハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辨濟期ニ在アラサルトキハ此限ニ在ス

第五百三十四條 特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

不特定物ニ關スル契約ニ付テハ第四百一條第二項ノ規定ニ依リテ其物カ確定シタル時ヨリ前項ノ規定ヲ適用ス

第五百三十五條 前條ノ規定ハ停止條件附雙務契約ノ目的物カ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ滅失シタル場合ニハ之ヲ適用セス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ毀損シタルトキハ其毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ毀損シタルトキハ債權者ハ條件成就ノ場合ニ於テ其撰擇ニ從ヒ契約ノ履行又ハ其解除ヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第五百三十六條 前二條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外當事者雙方ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ債務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ有セス

債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ失ハス但自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ利益ヲ得

タルトキハ之ヲ債權者ニ償還スルコトヲ要ス

第五百三十七條 契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シテ其給付ヲ請求スル權利ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ第三者ノ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ發生ス

第五百三十八條 前條ノ規定ニ依リテ第三者ノ權利カ發生シタル後ハ當事者ハ之ヲ變更シ又ハ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

第五百三十九條 第五百三十七條ニ掲ケタル契約ニ基因スル抗辨ハ債務者之ヲ以テ其契約ノ利益ヲ受クヘキ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第三款 契約ノ解除

第五百四十條 契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百四十一條 當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サスシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十三條 履行ノ全部又ハ一部ヲ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ不能ト爲リタルトキハ債務者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條 當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付キ消滅シタルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス

第五百四十五條 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金銭ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス
解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第五百四十六條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百四十七條 解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定メナキトキハ相手方ハ解除權ヲ有スル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ但時間内ニ解除ノ通知ヲ受ケサルトキハ解除權ハ消滅ス

第五百四十八條 解除權ヲ有スル者カ自己ノ行爲又ハ過失ニ因リテ著シク契約ノ目的物ヲ毀損シ若クハ之ヲ返還スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ加工若クハ改造ニ因リテ之ヲ他ノ種類ノ物ニ變シタルトキハ解除權ハ消滅ス

契約ノ目的物カ解除權ヲ有スル者ノ行爲又ハ過失ニ因ラスシテ滅失又ハ毀損シタルトキハ解除權ハ消滅セス

第二節 贈與

第五百四十九條 贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フル意思ヲ表示シ相手方カ受諾ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ生ス

第五百五十條 書面ニ依ラサル贈與ハ各當事者之ヲ取消スコトヲ得但履行ノ終ハタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百五十一條 贈與者ハ贈與ノ目的タル物又ハ權利ノ瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其責任セス但贈與者カ其瑕疵又ハ欠缺ヲ知リテ之ヲ受贈者ニ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

負擔附贈與ニ付テハ贈與者ハ其負擔ノ限度ニ於テ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第五百五十二條 定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其効力ヲ失フ

第五百五十三條 負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外雙務契約ニ關スル規定ヲ適用ス

第五百五十四條 贈與者ノ死亡ニ因リテ効力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ

第三節 賣買

第一款 總則

第五百五十五條 賣買ハ當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第五百五十六條 賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ賣買ノ効力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メサリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得ス
若シ相手方カ其期間内ノ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其効力ヲ失フ

第五百五十七條 買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スルマテ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其賠償ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第五百五十八條 賣買契約ニ關スル費用當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第五百五十九條 本節ノ規定ハ賣買以外ノ有償契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ

之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣買ノ効力

第五百六十條 他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ

第五百六十一條 前條場合ニ於テ賣主カ其賣却シタル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコトヲ能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十二條 賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラサル場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ買主ハ賣主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ貸金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ買受ケサルヘカリシトキハ

善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除善意ノ買主カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
第五百六十四條 前條ニ定メタル權利ハ買主カ善意ナリシトキハ事實ヲ知リタル時
ヨリ惡意ナリシトキハ契約ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス
第五百六十五條 數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一部カ契約
ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラザリシトキハ前二
條ノ規定ヲ準用ス

第五百六十六條 賣買ノ目的物カ地上權永小作權地役權留置權又ハ質權ノ目的タル
場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラザリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スル
コト能ハサル場合ニ限り買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得其他ノ場合ニ於テ損害
賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存セザリシ
トキ及ヒ其不動産ニ付キ登記シタル質貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リタル時ヨ
リ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第五百六十七條 賣買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル先取特權又ハ抵當權ノ行使
ニ因リ買主カ其所有權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ賣主ニ對シテ出捐ノ償還ヲ請求
スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得
第五百六十八條 強制競賣ノ場合ニ於テハ競落人ハ前七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對
シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債務者カ無資力ナルトキハ競落人ハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權
者ニ對シテ其代金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得
前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出テス又ハ債權者
カ之ヲ知リテ競賣ヲ請求シタルトキハ競落人ハ其過失者ニ對シテ損害賠償ノ請求
ヲ爲スコトヲ得

第五百六十九條 債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル
資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ノ將來ノ資力ヲ擔保シタルモノト推定ス
第五百七十條 賣買ノ目的物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ第五百六十六條ノ規定
ヲ準用ス但強制競賣ノ場合ハ此限ニ在ラス

第五百七十一條 第五百三十三條ノ規定ハ第五百六十三條乃至第五百六十六條及ヒ
前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條 賣主ハ前十二條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケザリシ事實及ヒ自ラ第三者ノ爲メニ設定シ又ハ之ニ讓渡シタル權利ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十三條 賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス

第五百七十四條 賣買ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ拂フヘキハ其引渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第五百七十五條 未タ引渡ササル賣買ノ目的物カ果實ヲ生シタルハ其果實ハ賣主ニ屬ス

買主ハ引渡ノ日ヨリ代金ノ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代金ノ支拂ニ付キ期限アルトキハ其期限ノ到來スルマテハ利息ヲ拂フコトヲ要セス

第五百七十六條 賣買ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者アリテ買主カ其買受ケタル權利ノ全部又ハ一部ヲ失フ虞アルトキハ其買主ハ其危險ノ限度ニ應シ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得其賣主カ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十七條 買受ケタル不動産ニ付キ先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルハ買主ハ滌除ノ手續ヲ終ハルマテハ其代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主ハ買主ニ對シテ滌滞ナク滌除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十八條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三款 買戻

第五百七十九條 不動産ノ賣主ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主ト拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還シテ其賣買ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ニ表示セザリシトキハ不動産ノ果實ト代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第五百八十條 買戻ノ期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ十年ニ短縮ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百八十一條 賣買契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルハ買戻ハ第三者ニ對シテモ其効力ヲ生ス

登記ヲ爲シタル賃借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限り之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得但賣主ヲ害スル目的ヲ以テ賃借借ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十二條 賣主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ賣主ニ代ハリテ買戻ヲ爲サント欲スルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ撰定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動

産ノ現時ノ價額ヨリ賣主カ返還スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ除剩アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得

第五百八十三條 買主ハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

買主又ハ轉得者カ不動産ニ付キ費用ヲ出シタルトキハ賣主ハ第九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還スルコトヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所ハ賣主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第五百八十四條 不動産ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ者持分ヲ賣却シタル後其不動産ノ分割又ハ競賣アリタルキハ賣主ハ買主カ受ケタル若クハ受クヘキ部分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得但賣主ニ通知セスシテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百八十五條 前條ノ場合ニ於テ買主カ不動産ノ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ競賣ノ代金及ヒ第五百八十三條ニ掲ケタル費用ヲ拂ヒテ買戻ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賣主ハ其不動産ノ全部ノ所有權ヲ取得ス

他ノ共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ因リ買主カ競落人ト爲リタルキハ賣主ハ其持分ノミニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四節 交換

第五百八十六條 交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財産權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其金錢ニ付テハ賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節 消費貸借

第五百八十七條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ因リテ其効力ヲ生ス

第五百八十八條 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス

第五百八十九條 消費貸借ノ豫約ハ爾後當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其効力ヲ失フ

第五百九十條 利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ貸主ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ瑕疵アル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ得但貸主カ其瑕疵ヲ知リテ之ヲ借主ニ告ケザリシトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十一條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

第五百九十二條 借主カ第五百八十七條ノ規定ニ依リテ返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケル物ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス但第四百二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六節 使用

第五百九十三條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其効力ヲ生ス

第五百九十四條 借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ要ス

借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得ス

借主カ前二項ノ規定ニ反スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條 借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス此他ノ費用ニ付テハ第五百八十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十六條 第五百五十一條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十七條 借主ハ契約ニ定メタル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ借主ハ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ終ハリタル時ニ於テ返還ヲ爲スコトヲ要ス但其以前ト雖モ使用及ヒ收益ヲ爲スニ足ルヘキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直チニ返還ヲ請求スルコトヲ得當事者カ返還ノ時期又ハ使用及ヒ收益ノ目的ヲ定メサリシトキハ貸主ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十八條 借主ハ借用物ノ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得

第五百九十九條 使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其効力ヲ失フ

第六百條 契約ノ本旨ニ反スル使用品ハ收益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出タル費用ノ返還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年內ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第七節 質貸借

第一款 總則

第六百一條 質貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其質金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リ其効力ヲ生ス

第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ質貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其質貸

借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ有ス

- 一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ賃貸借ハ十年
- 二 其他ノ土地ノ賃貸借ハ五年
- 三 建物ノ賃貸借ハ三年
- 四 動産ノ賃貸借ハ六月

第六百三條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間滿了前土地ニ付テハ一年
内建物ニ付テハ三ヶ月内動産ニ付テハ一ヶ月内ニ其更新ヲ爲スコトヲ要ス

第六百四條 賃貸借ノ存續期限ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ
以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二款 賃貸借ノ効力

第六百五條 不動産ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取
得シタル者ニ對シテモ其効力ヲ生ス

第六百六條 賃貸人ハ賃貸物ノ使用及ヒ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ
賃貸人カ賃貸物ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲サント欲スルハ賃貸人ハ之ヲ拒ムコ
トヲ得ス

第六百七條 賃貸人カ賃借人意思ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ之

カ爲メ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ
解除ヲ爲スコトヲ得

第六百八條 賃借人カ賃借物ニ付キ賃貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出タシタルハ
賃貸人ニ對シテ直ラニ其償還ヲ請求スルコトヲ得

賃借人カ有益費ヲ出タシタルハ賃貸人ハ賃貸借終了ノ時ニ於テ第九十六條第
二項ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ賃貸人ノ請求ニ因リ之ニ相
當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第六百九條 收益ヲ目的トスル土地ノ賃借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少キ收益ヲ
得タルトキハ其收益ヲ得タルハ其收益ノ額ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ請求スルコ
トヲ得但宅地ノ賃貸借ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百十條 前條ノ場合ニ於テ賃借人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上借賃ヨリ少
キ收益ヲ得タルハ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十一條 借賃物ノ一部カ賃借人ノ過失ニ因ラスシテ滅失シタルハ賃借人ハ
其滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スル
コト能ハサルトキハ賃貸人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十二條 賃借人ハ賃借人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ

轉貸スルコトヲ得ス

賃貸人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ収益ヲ爲サシメタルトキハ賃貸人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十三條 賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルキハ轉借人ハ賃貸人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ賃借ノ前拂ヲ以テ賃貸人ニ對抗スルコトヲ得ス前項ノ規定ハ賃貸人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第六百十四條 賃借ハ動産建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年未ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後遲滞ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十五條 賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルキハ賃借人ハ遲滞ナク之ヲ賃貸人ニ通知スルコトヲ要ス但賃貸人カ既ニ之ヲ知レルキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 第五百九十四條第一項第五百九十七條第一項及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ賃貸借ニ之ヲ準用ス

第三款 賃貸借ノ終了

第六百十七條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

一 土地ニ付テハ一年

二 建物ニ付テハ三月

三 貸席及ヒ動産ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃貸借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ着手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十八條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百十九條 賃貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用又ハ収益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃貸人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルキハ前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前賃貸借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

第六百二十條 賃貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解約ハ將來ニ向テノミ其効力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百二十一條 賃貸人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賃貸借ニ期間ノ定アルトキ

ト雖モ貸貸人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十二條 第六百條ノ規定ハ貸貸借ニ之ヲ準用ス

第八節 雇傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方ガ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スルトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ修身

間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約解除ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申込ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六ヶ月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三ヶ月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條 雇傭ノ期間滿了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申込ヲナ

スコトヲ得
 前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス
 但身元保證金ハ此限ニ在ラス
 第六百三十條 第六百二十條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス
 第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定アルトキト
 雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコ
 トヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償
 ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

第六百三十二條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕
 事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス
 第六百三十三條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但物ノ
 引渡ヲ要セサルトキハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス
 第六百三十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限
 ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラサル場合ニ於テ其修
 補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス
 注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場

合ニ於テハ第五百三十三條ノ規定ヲ準用ス

第六百三十五條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達ス
 スルコト能ハサルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但建物其他土地ノ工
 作物ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ
 性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ
 其材料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ知リテ之ヲ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ
 仕事ノ目的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セサル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ
 起算ス

第六百三十八條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ
 後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付
 テハ之ヲ十年トス

工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ注文者ハ其滅失又ハ毀損
 ノ時ヨリ一年內ニ第六百三十四條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第六百三十九條 第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時効期間內ニ限り

契約ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六百四十條 請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十一條 請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十章 委任

第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百四十四條 受任者ハ受任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十五條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況

ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滞ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スルコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス

第六百四十七條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス委任カ委任者ノ責ニ歸スヘカラサル事ニ因リ其履行ノ半途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ割合ニ應ジテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其ノ前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出シタルトキ

ハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

委任者カ受任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者チシテ自己ニ代ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但己ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者カ治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ亦同シ

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者其ノ相續人禁又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトト問

ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行爲ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節 寄託

第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百五十八條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者チシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者チシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第五百五條及ヒ第七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滞ナク其事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラザリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知ラザルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及ヒ第六百五十條第一項第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十二節 組合

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他ノ組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アリタルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ組合員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其結了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラズ第六百七十一條 組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至第六百五十五條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十二條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得ス又解任セララルコトヲ得

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス

第六百七十三條 各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セザルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第六百七十四條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メサリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ定ム利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メザルトキハ其割合利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定ス

第六百七十五條 組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラザリシトキハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十六條 組合員ガ組合財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百七十七條 組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定サリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メザルトキハ各組合員ハ何時ニテモ脱退ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

組合ノ存續期間ヲ定メザルトキト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ脱退ヲ爲スコトヲ得

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

- 一 死亡
- 二 破産
- 三 禁治産
- 四 除名

第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限り他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十一條 脱退シケル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脱退ノ當時ニ於ケル組合財産ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

脱退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハズ金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得

脱退ノ當時ニ於テ未ダ結了セサル事由ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十二條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十五條 組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其撰任シタ

ル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ撰任ハ總組合ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十六條 清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條 組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ撰任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス
殘餘財産ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ分割ス

第十三節 終身定期金

第六百八十九條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百九十條 終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ於テ之ヲ準用ス

第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得
前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス

第六百九十四條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第十四節 和解

第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百九十六條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサル確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス

第三章 事務管理

第六百九十七條 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス
管理若カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキハ其意思ニ

從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九十八條 管理者カ本人ノ身體名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルハ善意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルハ此限ニ在ラス

第七百條 管理者ハ本人相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコトヲ明カナルトキハ此限ニ在ラス

第七百一條 第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス

第七百二條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出ダシタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス

管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノ三項ノ規定ヲ適用ス

第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メ

他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百四條 善意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ得ス

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知リタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラザル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債務者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲナシタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ擔保ヲ拋棄シ又ハ時効ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲシタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行爲

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタ

ル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百十條 他人ノ身體自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トハ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財産權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辭職スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘザリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラス

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリ

トキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十九條 數人カ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連

帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同中行為ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルコトヲ知ルコト能ハサルトキハ亦同シ

教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行為者ト看做ス

第七百二十條 他人ノ不法行為ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムヲ得スシテ加害行為ヲシタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケズ
前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ産シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス
第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行為ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス
被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第七百二十三條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第七百二十四條 不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

●車稅規則

(明治八年二月第二十七號布告)

第一則

| | |
|---------------|---------|
| 一馬車二匹立以上 | 壹ケ年税金參圓 |
| 一全上一匹立 | 全 貳圓 |
| 一荷積馬車 | 全 壹圓 |
| 一人力車貳人乘 | 全 貳圓 |
| 一全 壹人乘 | 全 壹圓 |
| 一牛車 | 全 壹圓 |
| 一荷積大七八車 | 全 壹圓 |
| 一荷積中小車(但大六以下) | 全 五拾錢 |

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ヘ届出檢印可申受事
但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一 右税金上納ハ年々減度ニ區別シ半々年分宛區戶長へ取纏メ其管轄廳へ可相納事

但前半年分ハ一月三十日限り後半年分ハ七月三十一日限り其管轄廳へ可相納事(十一年布告第四號ヲ以テ改正)

第五則

一 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事

◎戶籍法中心得方及改正

(明治五年正月十三日大政官布告第四號)

戶籍法中心得方區々相成候箇條並改正ノ廉左ノ通ニ候條書本ニ照準シ取捨可致事

戶籍編制ノ事

戶籍ノ編制ハ來申年正月晦日現在ノ人員ヲ根據トシ同二月一日ヨリ凡百日ノ間ハ右人員檢査ノ日限ナレハ右日限中ノ増減ハ翌年正月ノ取調ニ因テ改ムヘキ事

死者届方期限ノ事

死者埋葬所ニ於テ記錄届方ノ義毎年十二月中迄ノ分翌年二月中ニ大藏省ニ可差出事
戶長副給料ノ事

戶長副給料並入費ハ凡テ下方ヨリ取立相當支給可致事

番號ノ事

番號ハ地所ニ就テ之ヲ數フ然レトモ戶數点檢ノ爲メ戶毎ニ番號ヲ貼スルハ地方ノ便宜ニ任スヘキ事

送籍證ノ事

凡ソ送籍スルモノ華士族卒僧尼舊神官ハ戶長へ申立管轄廳ノ證ヲ受テ平民ハ戶長副連印ノ證ヲ可與事

但平民ノ出入臣民ノ出產死去等前月分取集ノ翌月戶長副ヨリ其廳へ可相届事

囚獄及徒流人ノ事

囚獄人及ヒ徒流人等其管轄内戶籍アル者ハ戶籍表へ載セ他管内ノ者ハ寄留表中へ書載スヘキ事

總計表並届期限ノ事

戶籍及職分寄留總計並表共別紙雛形ノ通り改正相成候事

但來申年ハ戶籍共七戶中届出爾後ハ一々年分翌正月中取調二月ニ至可届出事

寄留者ノ事

凡ソ寄留スル者ノ届書ハ官員神官華士族卒僧尼舊神官ハ當人兵隊ハ隊長平民ハ戶主備主受人ノ内ニテ證印シ且寄留ノ地ニ於テ一戶ヲナセシ者ハ其管下ノ者同様届出書

出生死去出入及寄留者届出方改定

四百六十八

へ屋敷番號ヲ記シ其區戸長へ届ケシムヘシ
戸長ハ總体ノ書ヲ集メ式ノ如ク寄留總計ヲ作り其廳へ出シ其廳之ヲ受ケ寄留表へ書
載スヘキ事

出生死去出入及寄留者届出方改定

(明治十九年九月廿八日内務省令第十九號)

明治四年四月布告戸籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年正月第四號布告第
八項寄留者届出方左ノ通相定ノ來ル十二月一日ヨリ施行ス

- 第一條 出產アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第二條 死者アリタル時ハ埋葬以前ニ届出ヘシ
- 第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第四條 廢戸主廢嫡改名復姓身分變換其他願濟ノ上戸籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可
ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
- 第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戸主ヨリ届出ヘシ戸主未定又ハ不在ナルトキハ
親族二人以上又ハ事項ニ關係アル者ヨリ本籍地戸長ニ届出ヘシ但本籍地外ニアル
トキハ現在地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長へ届書ヲ發送ヘシ
- 第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テ寄留者ヨリ他人ノ

所有地者クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所
其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長へ届書ヲ發
送スヘシ

- 第七條 寄留地ヲ去ルトキ自地ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テ、地主又ハ
家主又ハ地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ
- 第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
- 第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ二十錢以上一圓二十五錢以下
ノ科料ニ處ス

戸籍取扱手續

(明治十九年十月十六日内務省令第二十二號)

戸籍取扱手續左ノ通り相定ム

戸籍

- 第一條 戸籍ハ戸籍用紙ヲ以テ之ヲ造リ各戸ヲ別葉ニ登記シ一町村毎ニ帳簿ニ編製
スヘシ但便宜ニ依リ一町村ヲ數冊ニ分綴シ又ハ數町村ヲ一冊ニ合綴スルコトヲ得
- 第二條 戸籍簿ハ副本ヲ作り郡役所ニ納メ置クヘシ區長ニ於テ戸籍ヲ取扱フトキハ
之ヲ管轄廳ニ納メ置クヘシ
- 第三條 若シ登記ノ事項多クシテ欄内ニ餘白ナキトキハ用紙ヲ其欄上ニ掛紙シ之ニ
登記スヘシ

但本紙ト掛紙トノ續目ニハ官印ヲ捺スヘシ

第四條 戸籍ハ字畫ヲ明瞭ニ記載シ濫ニ添削スルコトヲ得ス若シ錯誤脱漏ニ依リ添削スルトキハ之ニ認印ヲ捺シ且其刪ルヘキモノハ朱線ヲ畫シ原文ヲ存スヘシ

第五條 戸籍簿ノ改製ヲ要スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲナスヘシ

第六條 戸籍簿焼亡紛失シタルトキハ郡役所又ハ管轄廳ニ納メ置キタル副本ニ據リ編製スヘシ

第七條 戸籍簿ノ改製又編製ヲナシタルトキハ郡長又ハ管轄廳ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ但改製ニ係ル原戸籍簿ハ少クモ五十年間之ヲ保存スヘシ

第八條 戸籍ニ關スル届書ヲ受領シタルトキハ先ツ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日並ニ届出ノ年月日届出期限ナキモノハ其届出ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ但本籍地外ニ在ル者ニ係ル事項ニシテ届出期限アル者ハ添書發達及受領ノ年月日ヲモ之ニ記入スヘシ

第九條 登記目録ハ左ノ三種ニ分テ毎年一種毎ニ之ヲ編製スヘシ但一種中ニ部門ヲ設ケ之ヲ分録スルモ妨ケナシ

一 加籍目録

一 除籍目録

一 異動目録

第十條 第八條ノ手續ヲ了リタルトキハ直ニ戸籍ニ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日届出期限ナキモノハ届出ノ年月日ヲ登記シ届書ニハ受領ノ年月日及登記済ノ旨ヲ記入スヘシ

第十一條 戸籍ニ入ル者アルトキハ其戸籍ノ末ニ登記スヘシ戸籍ヲ除ク者アルトキハ其事項ヲ朱ニテ登記シ且其氏名朱線ヲ畫スヘシ

第十二條 全戸入籍スル者アルトキハ直ニ戸籍簿ニ編入スヘシ

第十三條 全戸除籍スル者アルトキハ朱ニテ登記シ其戸籍ニ朱線ヲ畫シ便宜之ヲ除籍簿ニ移スヘシ

第十四條 戸主ニ代替アルトキ家族ハ總テ新戸主ノ續柄ヲ以テ戸籍ヲ改寫スヘシ但舊紙ハ官員ヲ以テ新紙ト割印シタル上除籍簿ニ移シ綴ルヘシ

第十五條 戸籍ニ登記シ該届ニ記入シタルトキハ證テ之ニ認印ヲ捺スヘシ又諸届ハ一ヶ月分ヲ類集分綴シ翌月中ニ郡役所(區役所管轄廳)ニ送付スヘシ但郡役所又ハ管轄廳ニ於テハ戸籍簿ヲ改製スル時マテ之ヲ保存スヘシ

第十六條 送籍ヲ請求スルヲアルトキハ戸籍用紙ヲ以テ送籍狀ヲ作り直チニ入籍地ノ戸長(區ハ區長)ヘ發送シ且其戸籍ノ事項及發送ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ

送籍入籍

戸籍取扱手續

四百七十二

第十七條 人別ノ送籍狀ニ登記シタル事項ヲ漏遺ナク記載スヘシ

第十九條 入籍ヲ届出ルトキハ原籍地戸長(區ハ區長)ヨリ送籍シタル送籍狀ト照査シ入籍ノ手續ヲナシ五日以内ニ入籍報知書ヲ原籍地戸長ヘ發送スヘシ原籍地戸長ニ於テ之ヲ受領シタルトキハ其受領ノ年月日ヲ登記目録送籍狀ノ發達年月日ノ下ニ記入シ直チニ右入籍ノ日ヲ以テ除籍スヘシ

寄留

第二十條 他府縣又ハ他郡區ヨリ寄留届出アルトキハ入寄留簿ニ登記スヘシ其登記ハ總テ戸籍ノ例ニ依ル

第二十一條 入籍留簿ハ左ノ二種ニ分チ一種毎ニ之ヲ編製シ且一種中ニ一世帯ヲナス者ト然ラサル者トヲ區別編製スヘシ但一世帯ヲ爲ササル者ハ一帳ニ列記スルモ効ナシ

- 一 他府縣人入寄留簿
- 一 他郡人入寄留簿

第二十二條 寄留地ヲ去リタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其入寄留人名ニ朱線ヲ畫シ其別葉ヲナスモノハ便宜之ヲ除帳簿ニ移スヘシ

第二十三條 他府縣又ハ他郡區ヘ寄留シタルノ届書到達シタルトキハ出寄留簿ニ列

記スヘシ

第二十四條 出寄留者復歸シタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其人名ニ朱線ヲ畫スヘシ (戸籍用紙雜形略ス)

◎私生子ニ關スル件 (明治六年一月十八日太政官布告第二十一號)

妻妾ニ非サル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受タルヘキ事

但男子ヨリ已レノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戸長ニ請テ免許ヲ得候者ハ其子其男子ヲ父トスルヲ可得事

◎内外人婚姻ニ關スル件 (明治六年三月十四日太政官布告第百三號)

自今外國人民ト結婚差許左ノ通條規相定候條此旨可相心得事

- 一 日本人外國人ト婚嫁セントスル者ハ日本政府ノ免許ヲ受クヘシ
- 一 外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若シ故有テ再ヒ日本ノ分限ヲ得ヘシ
- 一 日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本ノ國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
- 一 外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ履シタル者ト雖モ日本ノ不動產ヲ所有スル

私生子ニ關スル件◎内外人婚姻ニ關スル件

- コトヲ許サズ但シ日本ノ國法並日本政府ニテ定メタル規則ニ違背スルコトハ
クハ金銀動産ヲ持携スルハ妨ケナシトス
- 一 日本ノ女外國人ノ婚養子トナス者モ亦日本政府ノ免許ヲ受クヘシ
- 一 外國人日本人ノ婚養子トナリタル者ハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得
ヘシ
- 一 外國ニ於テ日本人外國人ト婚嫁セントスル者ハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本
公使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ公使及領事官ハ裁下ノ上本國政府へ届
出ヘシ
- 婚姻養子女若クハ離縁等戶籍ニ登記セサル内ハ其妨ナキモノトス
(明治八年十二月九日太政官達第二百號)
- 婚姻又ハ養子養女ノ取組者クハ其離縁縁令相對熟談ノ上タリトモ雙方ノ戶
籍ニ登記セサル内ハ其妨ナキ者ト見做スヘク候條右等ノ届方等閑ノ所業無之
様精々説諭可致置此旨相達候事

第二款 雜 則

郵便稅摘要

書狀

- 目方二匁迄貳錢 全貳匁以上四匁迄 四錢 全四匁以上六匁迄 六錢
- 以上右之割合ヲ以テ目方貳匁迄ヲ増ス毎ニ税金貳錢ツツヲ増シテ納ムヘシ
- 葉書及往復葉書
- 一 葉書一葉 壹錢 一 往復葉書 全貳錢 一 萬國聯合郵便葉書 貳錢
- 一 全 參錢 全郵便往復葉書全四錢 一 全 六錢
- 書籍類並ニ見本品
- 目方三十匁迄 貳錢 全三十匁以上六十匁迄 四錢 全六十匁以上九十匁迄 六錢
- 以上右ノ割合ヲ以テ目方三十匁迄ヲ増ス毎ニ税金貳錢ツツヲ増シテ納ムヘシ
- 但書籍ハ一個ノ目方三百匁迄見本及雛形ハ一個ノ目方百匁迄ニ限ルヘシ
- 官併ニ遞信省認可文字アル新聞雜誌類
- 一 號一個ニテ差出ヌモノハ 目方十六匁迄五厘 全十六匁以上卅二匁迄壹錢 全
三十二匁以上四十八匁迄壹錢五厘
- 以上右ノ割合ヲ以テ目方十六匁ヲ増ス毎ニ税金五厘ツツヲ増シテ納ムヘシ
- 但一個ノ重量三百匁ヲ過クルヘカラヌ
- 二 號又ハ二個以上一束ニシテ差出ヌモノハ 目方十六匁迄壹錢 全十六匁以上三
十二匁迄貳錢 全三十二匁以上四十八匁迄金三錢

以上右ノ割合ニテ目方十六匁迄ヲ増ス毎ニ税金壹錢ツ、ヲ増シテ納ムヘシ
但一束ノ重量前全斷

小包郵便料

第一條 小包郵便料ハ小包郵便物ノ重量及其差立郵便局 配達郵便局ヨリ郵便

配達郵便局ノ里程ニ從ヒ別項ニヨリ之レヲ徵收ス

第二條 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

容積 長 曲尺二尺
幅 全二尺
厚 全二尺

但シ幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限リ差出スコトヲ得

重量一貫五百匁

第三條 小包郵便物ノ登記價格ハ金百五十圓ヲ經過スルコトヲ得ス

第四條 價格登記小包郵便物ノ保險料ハ登記金額壹圓マテ金七錢トシ壹圓以上ハ壹

圓迄毎ニ金壹錢ヲ加フ

第五條 通常小包郵便ノ損害ニ對シテハ重量百匁ニ付金十錢ノ割合ヲ以テ之ヲ賠償

シ其一部分ノ損害ニ對シテハ其制限内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス

第六條 價格登記小包郵便物ノ損害ニ對シテハ其登記金額迄之ヲ賠償シ其一部分ノ

損害ニ對シテハ登記金額内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之レヲ賠償ス

小包郵便料ハ左ノ通り相定ム

| | | | | | | |
|------|------|------|------|------|--------|--------|
| 二百匁迄 | 四百匁迄 | 六百匁迄 | 八百匁迄 | 一貫匁迄 | 一貫二百匁迄 | 一貫五百匁迄 |
| 五錢 | 七錢 | 九錢 | 拾壹錢 | 拾參錢 | 拾五錢 | 拾七錢 |
| 十里マテ | 八錢 | 拾貳錢 | 拾六錢 | 貳拾錢 | 貳拾四錢 | 貳拾八錢 |
| 百里マテ | 拾六錢 | 貳拾四錢 | 參拾貳錢 | 四拾錢 | 四拾八錢 | 五拾六錢 |
| 百里以外 | 拾六錢 | 貳拾四錢 | 參拾貳錢 | 四拾錢 | 四拾八錢 | 五拾六錢 |
| | | | | | | 六拾四錢 |

本令ハ明治二十九年七月一月ヨリ施行ス

郵便爲替差出方及受取心得

第一 通常爲替差出方

一 爲替證書一枚ノ金高ハ三十圓ヲ限リ端數ハ厘位ヲ限ルヘシ

二 爲替料ハ路程ノ遠近ニ拘ハラズ左ノ割合ニ從ヒ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ

爲替金五圓迄 四錢 全拾圓迄 六錢

全貳拾圓迄 拾錢 全參拾圓迄 拾五錢

清國上海ト内地間ニ受授スル爲替料ハ左ノ如シ

爲替金拾圓迄 拾錢 全貳拾圓迄 貳拾錢

全參拾圓迄 參拾錢

郵便爲替差出方及受取方心得

- 三 爲替ヲ差出スモノハ爲替ヲ取扱郵便局ニテ爲替願書ノ用紙ヲ申受ケ之ニ爲替金高年月日爲替金ヲ拂渡スヘキ郵便局名及ヒ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ認メ印ヲ押シ之ニ爲替料トシテ納ムヘキ郵便切手ヲ貼付シ爲替金トトモニ郵便局ニ差出シ爲替證書及ヒ受取證ヲ受取ルヘシ但爲替證書ハ差出人ヨリ自費ニテ受取人ニ送ルヘシ
- 四 差出人爲替證書ヲ受取人ニ送ルトキハ爲替願書ニ認メタル差出人受取人ノ住所氏名其他ヲ漏レナク受取人ニ通知スヘシ此通知スヘキ書面ト爲替證書トハナルヘク別封ニテ送ルヘシ
- 五 差出人爲替證書ヲ受取リタル後若シ其爲替無用トナリタルトキハ拂出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請フヲ得ヘシ
- 第二 通常爲替受取方
- 六 受取人爲替金ヲ受取ルトキハ爲替證書ノ表面受取人記名調印ノ部ニ氏名ヲ書シ印ヲ押シ拂渡局ニ行キテ其證書ヲ差出シ郵便局ニテ尋ル差出人受取人ノ宿所氏名其他爲替願書ニ書キ入レタル諸件ヲ皆克ク明カニ答ヘ爲替金ヲ受取ルヘシ
- 七 差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキハ前項ノ受取人ト同ク爲替證書ニ氏名ヲ書スヘシ印ヲ捺シ受取證書トトモニ振出局ニ差出シ爲替金ヲ受取ルヘシ

第三 電信爲替差出方

- 八 電信爲替證書一枚ノ金高ハ參拾圓迄ヲ限リ壹圓ニ滿マサル端數ヲ差出スヘカラス
- 九 爲替料ハ路程ノ遠近ニ拘ハラズ左ノ割合ニ從ヒ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ
爲替最高五圓迄 貳拾八錢 全 拾圓迄 參拾錢
爲替最高十圓迄 參拾五錢 全 參拾圓迄 四拾錢
- 十 電信爲替ノ差出方ハ通常爲替ト同様郵便局ニテ爲替證書ノ用紙ヲ申受之ニ金高其他差出人受取人ノ住所氏名等ヲ認メ其差出人受取人ノ宿所氏名ニハ片假名ヲ付ケ爲替料トトモニ郵便局ニ差出シ受領證書ヲ受取ルヘシ
- 第四 電信爲替受取方
- 十一 電信爲替證書ハ拂渡局ニテ調製爲替金高其他ヲ受取人ニ通知スルモノナレハ受取人ハ其通知書ノ日付ヨリ七日内ニ拂渡局ニ到リ通知書ニ差出人ノ宿所氏名等ヲ明カニ認メ之ヲ差出シ爲替金ヲ受取ルヘシ
- 十二 受取人爲替金ヲ受取トキハ又ハ差出人爲替證ノ返戻ヲ受ルトキハ渾テ通常爲替同様ノ手續ヲ爲スヘシ
- 十三 拂渡局ニテ爲替證書ヲ受取人ニ渡シ難キトキハ振出局ヲ經テ差出人ニ之ヲ渡スヘシ

十四 差出人前項ノ通り振出局ヨリ爲替證書ヲ渡サレタルトキ尙其爲替證書ヲ受取人ニ送ラントスルトキハ通常爲替ト同様ノ手續ニテ送ルヘシ

第五 小爲替差出方

十五 爲替證書一枚ノ金高ハ三圓迄ヲ限リ端數ハ厘位ヲ限ルヘシ

十六 爲替料ハ爲替證書一枚ニ付金三錢郵便切手ヲ以テ納ムヘシ

十七 爲替ヲ差出スモノハ爲替金爲替料トトモニ爲替ヲ取扱郵便局ニ差出シ爲替證書及ビ受領證書ヲ受取ルヘシ

但爲替金ヲ拂渡スヘキ郵便局ヲ指シ定メ爲替證書ニ其局名ノ記入ヲ受クヘシ

十八 差出人ハ爲替證書ノ表面受取人ノ部ニ受取人ノ宿所氏名ヲ明カニ認メ自費

ニテ受取人ニ送ルヘシ若シ自身ニテ認メ難キトキハ振出局ニ其認メ方ヲ請フヘシ

第六 小爲替受取方

十九 受取人爲替金ヲ受取トキハ爲替證書ノ裏面ニ設ケアル受取人ノ部ニ宿所氏名ヲ書シ印ヲ押シ之レヲ拂渡局ニ差出シ爲替金ヲ受取ルヘシ

二十 差出人爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ爲替證書ノ裏面ニ設ケアル受取人ノ部

ニ宿所氏名ヲ書シ印ヲ押シ之レニ受領證書ヲ添ヘ何地ニテモ其受取方ニ便利ナル爲替ヲ取扱フ郵便ニ差出シ爲替金ヲ受取ルヘシ

第七 爲換金渡濟通知

二十一 差出人爲換金ヲ受取人ニ渡濟トナリタルコトヲ承知シタルトキハ爲替ヲ差出ストキ振出局ニ通知料ヲ納メ豫テ其由ヲ申立置クヘシ

二十二 爲換金渡濟ノ通知料ハ爲換證書一枚ニ付キ金二錢トス其通知料ハ郵便切手ニ換テ納ムヘシ

二十三 通知料納濟ノ爲換ニハ必ラス振出局ニテ爲換證書電信爲換ハ受領證書ニ通知料納濟ノ印ヲ押シテ渡スヘキニ付篤ト其印ヲ改メ受取ルヘシ

二十四 受取人渡濟通知ヲ要スル爲換ヲ受取ルトキハ拂渡局ノ求ニ從ヒ同局ニ備ヘアル通知書ニ氏名ヲ認メ印ヲ押シ又小爲替ナルトキハ差出人ノ宿所氏名ヲ

モ申述ヘシ

第八 爲替證書拂渡請求方

二十五 爲替證書ヲ失ヒ又ハ証書ノ金高印章番號ノ類ヲ郵便局ニテ調ヘ難キ程ニ破レ損シ又ハ汚シタルトキ又ハ爲替金ノ拂渡期限ヲ過キ又証書(小爲替ヲ除ク)ニ記ナル拂渡局ニテ爲替金ニ受取ニ不便ナルトキハ次ノ定メニ從ヒ郵便爲替金局ニ再渡ノ証書又ハ書替ヲ請求スヘシ

二十六 爲替證書ノ書替又ハ再度ノ証書ヲ要スルトキハ最寄ノ爲替ヲ取扱フ郵便局ニテ請求書ノ用紙ヲ申受ケ之レニ書替又ハ再度ノ証書ヲ要スル譯柄等ヲ認

郵便局ニ差出シ預書ヲ請取ルヘシ

但再度ノ証書ハ差出人ヨリ請求スヘシ

二十七 郵便局ニテ受取タル預リ書ハ新証書ヲ渡ストキ之レト引換ニ納ムヘキモ

ノニ付大切ニ保存シ置クヘシ

二十八 爲替証書ノ書替又ハ再度ノ証書ヲ請求スルモノハ更ニ爲替料ヲ郵便局ニ納ムヘシ

二十九 小爲替証書ヲ失ヒ証書再渡ヲ請求シタルモノハ其證書ノ日付ヨリ百二十日ヲ經タル上ナラテハ証書ヲ渡サ、ルヘシ

第九 雜則

三十 爲替ヲ差出ストキ振出局ヨリ渡シタル受領証書ハ後日其爲替金ノ返戻又ハ再渡ノ証書ヲ請求スルトキ等ノ証據トナスヘキモノニ付キ其証書ニ設ケアル差出人受取人宿所氏名ノ部ヘ其差出人及受取人ノ宿所氏名ヲ書入レ之レヲ大切ニ保存シ置クヘシ

三十一 通常爲替電信爲替ハ其証書ノ日付ヨリ百二十日又小爲替証書ハ六十日以内ニ爲替金ヲ受取ルヘシ

三十二 代人ニテ爲替金ヲ受取ルトキハ爲替証書ノ裏面ニ代人某受取方ヲ委任セシ旨ノ文言及ヒ自己ノ氏名ヲ認メ印ヲ押シ其代人ニ自己ノ受取ルトキト同様

ノ手續ヲナサシム但委任書ハ別紙ニ認メ差出ストモ妨ケナシトス

三十二 爲替金ノ渡シ方ヲ申出テタルトキ左ノ事故アルトキハ爲替金ノ拂渡ヲ停延シ郵便局ヨリ受取人ニ拂渡停延書ヲ渡スヘシ

一 規則ノ通り爲替証書調製ナキカ又ハ拂出局ヨリ爲替ノ報知達セサルトキ又ハ受取人ノ答辨拂出局ノ報知ニ不符合ノトキ

一 爲替資金殘少ニテ補充金ノ達セサルトキ

三十四 郵便局ノ許可ヲ受ケヌシテ小爲替証書ニ指定シタル拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變ヘ又ハ其宿所氏名ヲ書キ直シタルキハ爲替金ヲ拂渡サ、ルヘシ

三十五 小爲替証書ヲ認メタル受取人ノ宿所氏名ヲ變ヘ又ハ之ヲ書キ直ストキハ差出人ヨリ爲替ヲ受取ラ郵便局ニ其事由ヲ申立爲替証書ノ裏面ニ許可ノ證ヲ受クヘシ

但受領証書ヲ示シ差出人タルコトヲ證明スヘシ

三十六 爲替取扱ノ休日ハ左ノ通り

一月一日 二日 三日

新年 宴會 孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭 天長節

新嘗祭

日曜日

郵便爲換差出方及受取方心得

●郵便貯金條例

- 第一條 郵便貯金ノ事務ハ逓信大臣之ヲ管理ス
- 第二條 郵便貯金ハ逓信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡取扱ヲナスモノトス
逓信大臣ニ於テ必要ト認ム場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金ノ預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ
- 第三條 郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ證トス
- 第四條 郵便貯金一人一度ノ預金ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五十圓以下トス
- 第五條 郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス
- 第六條 郵便貯金ノ利息ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ
郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及拾錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セズ
郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發付ノ月ヨリ利子ヲ付セズ
郵便貯金ノ利息計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ
- 第六條 郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ金額又ハ其幾分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ中未タ元金ニ加サル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

- 第七條 郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得但其公債證書ノ額面五十圓又ハ五十圓ヲ超加シタルモノニ限ル
郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルコトヲ得
郵便貯金預ケ人ハ貯金金額拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ全時ニ其下渡ヲ請求スヘシ
- 第八條 郵便貯金ノ預ケ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ制限以內ニ引直サシムヘシ
前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以内ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其貯金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五十圓ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第九條 郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタルモノアリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セシテ拂戻ヲ爲サシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニ總テ利子ヲ付セシテ拂戻ヲ爲サシム
- 第十條 郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其通帳ヲ遞

信省ニ差出シ前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノ
ハ之ヲ六月ニ差出ヘシ

第十一條 郵便貯金ハ其預ケ入最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差
出シ其書換又ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年
間預入ヲ爲サヌ又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ
翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サヌ又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササ
ルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證
書モ併テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ノ預入ヲナシ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差
出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條 郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻郵便又ハ下渡證
書ノ日附ヨリ一箇年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託
所ニ寄託スヘシ

第十三條 郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除クノ外其名
前書換ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條 郵便貯金預ケ人ハ損害ヲ蒙ラシメ政府其辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ

ハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキ
ハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限内ニ

請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモノトス

第十五條 郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス

第十六條 郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證券印稅ヲ免除ス

第十七條 本條例施行ノ細則ハ遞信省大臣之ヲ定ム

附 則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第一百五十七條乃至第二百二條及第二百四
十二條第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

諸印紙貼用規定

証書帳簿ヲ分チ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類 左ニ掲クル所ノ証書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラヌ下ニ定ムル所ノ印紙
ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ印稅ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一 當座預金引出小切手

印 稅 五厘

一 委任狀全

全 印 稅 五厘

| | | |
|----------------|---|----|
| 一金高記載ナキ約定証文 | 全 | 壹錢 |
| 一遺金(物)証文 | 全 | 壹錢 |
| 一跡式讓証文 | 全 | 壹錢 |
| 一讓與証文 | 全 | 壹錢 |
| 一期限ヲ定メサル預リ金証文 | 全 | 壹錢 |
| 一耕地小作証文 | 全 | 壹錢 |
| 一雇人請合狀 | 全 | 壹錢 |
| 一金高記載ナキ諸物品預リ証文 | 全 | 壹錢 |
| 一金高記載ナキ諸物品借用証文 | 全 | 壹錢 |
| 一地所家屋預リ証文 | 全 | 壹錢 |
| 一諸物品切手 | 全 | 壹錢 |
| 一借地(借家)証文 | 全 | 壹錢 |
| 一賣買仕切書 | 全 | 壹錢 |
| 一保險証文 | 全 | 壹錢 |
| 一諸會社株券 | 全 | 壹錢 |
| 一送金手形 | 全 | 壹錢 |
| 一金錢諸物品通帳 | 全 | 壹錢 |

(一年以内一冊ニ付)

| | | |
|-----------|---|----|
| 一金錢諸物品判取帳 | 全 | 壹錢 |
| 一結社約定書 | 全 | 壹錢 |

但シ結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル証書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル証書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

| | | |
|------------|----|----|
| 一營業ニ關スル送狀 | 印稅 | 壹錢 |
| 一營業ニ關スル請取書 | 印稅 | 壹錢 |

右諸証書ヲ通帳トナストキハ總テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ証書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但シ爲換手形約束手形ハ用紙ヲ用フヘシ

| | | |
|----------------|---|----|
| 一金錢借用證文 | 全 | 壹錢 |
| 一地所家屋賣買證文 | 全 | 壹錢 |
| 一金高記載アル諸物品預リ證文 | 全 | 壹錢 |
| 一金高記載アル諸物品借用證文 | 全 | 壹錢 |
| 一諸物品賣買證文 | 全 | 壹錢 |

諸印紙貼用規定

四百九十

| | | |
|----------------|---|------|
| 一金錢定期預リ證文 | 同 | 壹錢 |
| 一金高記載アル諸般ノ契約書 | 同 | 壹錢 |
| 金高壹圓以上貳拾圓未滿 | 同 | 貳錢 |
| 金高貳拾圓以上五拾圓未滿 | 同 | 四錢 |
| 金高五拾圓以上百圓未滿 | 同 | 六錢 |
| 金高百圓以上百五拾圓未滿 | 同 | 八錢 |
| 金高百五拾圓以上貳百圓未滿 | 同 | 拾壹錢 |
| 金高貳百圓以上參百圓未滿 | 同 | 拾四錢 |
| 金高參百圓以上四百圓未滿 | 同 | 貳拾錢 |
| 金高四百圓以上六百圓未滿 | 同 | 貳拾六錢 |
| 金高六百圓以上八百圓未滿 | 同 | 參拾貳錢 |
| 金高八百圓以上千圓未滿 | 同 | 參拾八錢 |
| 金高千圓以上千四百圓未滿 | 同 | 四拾四錢 |
| 金高千四百圓以上千七百圓未滿 | 同 | 五拾錢 |
| 金高千七百圓以上貳千圓未滿 | 同 | 六拾錢 |
| 金高貳千圓以上貳千五百圓未滿 | 同 | 七拾錢 |
| 金高貳千五百圓以上參千圓未滿 | 同 | 七拾錢 |

| | | |
|--|----|-----|
| 金高參千圓以上參千五百圓未滿 | 同 | 八拾錢 |
| 金高參千五百圓以上四千圓未滿 | 同 | 九拾錢 |
| 金高四千圓以上 | 同 | 壹圓 |
| 右諸證書ヲ通帳トナスルハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ | 印稅 | 四錢 |
| 金高百圓未滿 | 同 | 四錢 |
| 金高百圓以上總テ證書稅率ニ據ルヘシ | 同 | 四錢 |
| 一金錢當座預リ証文 | 同 | 四錢 |
| 一質物(預リ書小札) | 同 | 四錢 |
| 金高壹圓以上貳拾圓未滿 | 同 | 壹錢 |
| 金高貳拾圓以上 | 同 | 貳錢 |
| 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ | 同 | 貳錢 |
| 金高百圓未滿 | 同 | 貳錢 |
| 金高百圓以上 | 同 | 四錢 |
| 一爲換手形 | 同 | 四錢 |
| 一荷爲換手形 | 同 | 四錢 |
| 一約束手形 | 同 | 四錢 |

諸印紙貼用規定

四百九十一

| | | |
|--------------|----|------|
| 金高五拾圓未滿 | 印稅 | 壹錢 |
| 金高五拾圓以上百圓未滿 | 同 | 貳錢 |
| 金高百圓以上貳百圓未滿 | 同 | 四錢 |
| 金高貳百圓以上五百圓未滿 | 同 | 八錢 |
| 金高五百圓以上千圓未滿 | 同 | 拾五錢 |
| 金高千圓以上貳千圓未滿 | 同 | 貳拾五錢 |
| 金高貳千圓以上 | 同 | 五拾錢 |

民事訴訟用紙貼用規則

凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス
訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價格ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ其受付ノ時ニ於
テ印紙ヲ貼用スヘシ

| | | |
|----|-------|-------|
| 金額 | 五圓迄 | 貳拾錢 |
| 全 | 拾壹圓迄 | 三拾錢 |
| 全 | 貳拾圓迄 | 六拾錢 |
| 全 | 五拾圓迄 | 壹圓五拾錢 |
| 全 | 七拾五圓迄 | 貳圓貳拾錢 |

全 百圓迄 三圓
 全 貳百五拾圓迄 六圓五拾錢
 全 五百圓迄 拾圓
 全 七百五拾圓迄 拾三圓
 全 千圓迄 拾五圓
 全 貳千五百圓迄 貳拾圓
 全 五千圓迄 貳拾五圓
 全 五千圓以上千圓毎ニ貳圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼スヘシ
 人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ
 ハ加貼スルハ前項ニ同シ
 但シ人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ市町村長ノ證明書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ
 印紙ノ貼用ヲ免スルコトアルヘシ

聯隊區司令部條例並ニ配置

第一條 各聯隊區ニ司令部ヲ置ク其ノ職員左ノ如シ

司令官 佐官

明治二十九年 三月廿五日

(勅令第五十六號)

大(中)尉

副官

軍醫

軍吏

書記

司令部以下ハ現役、豫備、後備ノモノヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ豫備、後備ノモノハ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二條 司令官ハ師團長ニ隸シ聯隊區徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條 司令官ハ聯隊區内ニ現在スル在郷陸軍人及各補充兵役ニ在ル者ノ身上異動其ノ他願届ニ關スル事ヲ掌ル

第四條 副官ハ司令部一般ノ事務ニ服ス

第五條 軍醫ハ徵兵、志願兵及生徒志願者ノ身體檢査ニ從事シ且之ニ關スル事務ヲ管理ス

第六條 軍吏ハ會計一般ノ事ニ服ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

第八條 各聯隊區司令部ノ位置ハ左ノ如シ

- | | | | |
|----|-----|----|----|
| 本郷 | 宇都宮 | 佐倉 | 水戸 |
| 麻布 | 横濱 | 高崎 | 長野 |

- | | | | |
|-----|-----|-----|----|
| 仙臺 | 福嶋 | 新發田 | 柏崎 |
| 名古屋 | 津 | 豊橋 | 静岡 |
| 大坂 | 和歌山 | 大津 | 京都 |
| 廣嶋 | 尾道 | 山口 | 濱田 |
| 熊本 | 大村 | 鹿兒嶋 | 宮崎 |
| 札幌 | 函館 | 根室 | 十勝 |
| 弘前 | 盛岡 | 秋田 | 山形 |
| 金澤 | 富山 | 鯖江 | 岐阜 |
| 福知山 | 神戸 | 姫路 | 岡山 |
| 丸龜 | 徳嶋 | 松山 | 高知 |
| 小倉 | 大分 | 福岡 | 佐賀 |

附 則

第九條 濱田、大村、弘前、鯖江、各聯隊區司令部ハ當分其ノ區内ニ於ケル從前ノ

大隊區司令部所在地ニ置クコトヲ得

第十條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第十一條 大隊區司令部條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎海軍區鎮守府配置ノ地

- 第一海軍區 橫須賀鎮守府 相模國三浦郡橫須賀港
- 第二海軍區 吳鎮守府 安藝國安藝郡吳港
- 第三海軍區 佐世保鎮守府 肥前國東彼杵郡佐世保港
- 第四海軍區 舞鶴鎮守府 丹後國加佐郡舞鶴港(未開廳)
- 第五海軍區 室蘭鎮守府 膽振國室蘭郡室蘭港(同上)

◎内國諸港へノ航海里程

- 自横濱 至駿河清水 五十海里
- 全 至伊勢四日市 百九十海里
- 全 至攝津神戸 三百三十三海里
- 全 至長門馬關 五百六十六海里
- 全 至肥前長崎 七百〇七海里
- 自横濱 至薩摩鹿兒島 五百六十五海里
- 全 至琉球那覇 千〇二十五海里
- 全 至陸前萩夕濱 二百七十海里
- 全 至陸奥青森 百六十二海里

- 全 至渡嶋函館 五百十八海里
- 全 至後志小樽 八百十海里
- 全 至根室根室 八百海里
- 全 至越中伏木 八百三十九海里
- 全 至越後新潟 七百三十八海里
- 自神戸 至備後尾道 百〇八海里
- 自長崎 至筑前博多 九十六海里
- 全 至肥前嶋原 五十五海里
- 全 至對嶋嚴島 百十海里
- 自長崎 至薩摩鹿兒島港 百五十二海里
- 自新潟 至長門馬關 四百九十三海里
- 全 至越前敦賀 二百三十海里
- 全 至越中伏木 百二十二海里
- 全 至羽後酒田 六十八海里
- 全 至越後直江津 六十三海里
- 自函館 至陸奥青森 五十九海里
- 全 至羽後酒田 百十九海里

内國諸港へノ航海里程、外國有名諸港へノ航海里程 四百九十八

全 至根室根室 二百九十五海里

◎外國有名諸港へノ航海里程

自横濱 至香港 千三百五十六海里
 全 至柴棍 二千二百四十九海里
 全 至新嘉坡 二千八百六十三海里
 全 至錫蘭 四千三百七十三海里
 全 至亞丁 六千五百七海里
 全 至蘇生 七千八百十五海里
 全 至伊國那不兒 九千三十三海里
 全 至佛國馬耳塞 九千五百二十八海里
 全 至布哇 三千二百四十三海里
 全 至桑港 三千九百十二海里
 全 至巴拿里ヲ經紐育 八千九百二十四海里
 全 至濠州麥普尼 四千百二十九海里
 全 自長崎 至上海 四百三十七海里
 全 至芝罘 四百九十二海里

全 至天津 六百六十三海里
 全 至釜山 百六十二海里
 全 至仁川 四百五十八海里
 全 至元山津 四百六十海里
 全 至浦潮斯德 六百五十五海里

(備考一海里八十六町九分七厘五毛)

◎第二款

縣役所 郡役所 登記所 町村役場

ニ要スル諸願届書式

◎出産届

何郡何町村何番地身分

何之誰何男

名

何年何月何日生

右頭書之通出生仕候間此段御届申候也

年月日

何(町)(村)(長氏名宛)

何之誰

◎入籍届

縣郡(町)(村)(番地身分

何之誰何男(又ハ何夕)

名

何年何月何日生

右私(妻)ニ(養子)ニ(貰受)候間此段御届申候也

右

年月日 町村番地 何之誰
(本人不在ナレハ親族二人以上ヨリ届出ヘシ)

町村長宛

◎轉住入籍届

縣郡町村番地身分

戶主 氏 名

何年何月何日生

妻 名

何年何月何日生

長男 名

何年何月何日生

右何町何番地(全戶轉住、分家)復歸、分家別立、致候間

此段御届申候也

右

年月日 何之誰

町村長宛

◎死亡届

何町番地(士族)誰何男女

何年何月何日午前第何時死亡

何年何月何日午後第何時埋葬

何年何月何日生

右死亡候ニ付埋葬認許證御下附被下度醫師(診斷)書相添此段御届申候也

(檢案)

年月日

右

何之誰

町村長宛

◎死亡届

縣郡町村番地(宿留)逗留

縣郡町番地身分何之誰何男女

何年何月何日午前第何時死亡

何年何月何日午前第何時埋葬

何年何月何日生

右ノ者死亡候ニ付何町何處共有墓地へ埋葬致度候間埋葬認許證御下付被下度醫師

(診斷)(檢案)書相添此段御届申候也

右(死亡)戶主又ハ親族)

年月日 何之誰

家主 何之誰

何(町)(村)長宛

◎送籍届

町村番地身分氏名何男女

名

年月日生

右之者何縣何郡(町)(村)番地身分何某方(妻縁女養)ニ遣シ候間此段御届申候也

(子相續人)

右

年月日 何之誰

町村長宛

◎失踪(復歸)届

(町)(村)番地

身分氏名何男女

名

年月日生

右之者(年月日)家出候儘于今歸宅不致候

ニ付失踪ト見認(年月日)失踪之處年月日

歸宅)候間此段御届申候也

右(戶主)

何之誰

町村長宛

◎復姓(改名其)届

町番地身分氏名何男女

名

舊姓(名)

右復姓(改名)之義出願致候處月日御許可相成候ニ付此段御届申候也

年月日 右(戶主) 何之誰

町村長宛

◎(家督相續)(結婚)(離婚)届

(町)(村)番地身分

氏名

戶主氏名長女(二女) 名

右ハ何年何月何日(家督相續)(誰ト結婚)
(妻離婚)致候間此段御届申候也

年月日 右 何之誰

(相續ノトキ)前戶主

何之誰

町村長宛

◎附籍届

縣郡(町)(村)番地(平民) 士族

何之誰何男 名

年月日生

右何町村何番地何之誰方へ附籍候間此段御届申候也

年月日 右 何之誰

附籍主

何之誰

町村長宛

◎出寄留届

町番地身分氏名(何男何女) 父兄弟名 名

右何年何月何日ヨリ縣郡町村番地何之誰方へ寄留致候間此段御届申候也

年月日 右 何之誰

町村長宛

◎入寄留届

縣郡町村番地身分戶主氏名

父名幾男女 名

年月日生

右何年何月何日ヨリ何町村何番地(誰方)
(持家)(借家)(全戶)寄留致候間此段御届申候也

年月日 何之誰

(家主)(地主)(某管理者)

何之誰

◎結婚入籍届

何郡何村大字何々番地 族氏名妻(婦) 何男名妻(婦) 名

右ハ何縣何郡何村何番地族氏名何女ヲ娶リ候ニ付入籍相成度此段御届申上候也 (以下出生届ニ全シ)

◎養子(女)入籍届

何郡何村大字何々番地 族氏名養子(女) 名

右ハ何縣何郡何村何番地族氏名何男女ヲ貰受候間入籍相成度此段及御届候也 (以下全上)

◎離婚復籍届

何郡村何番地 族氏名何男 名

右者何縣何郡何村何番地族氏名夫(妻)離婚復歸ニ付入籍相成度此段及御届候也 (以下全上)

◎流産届

埋葬地(死亡届ノ例ニ依ル)

流産

在胎何ヶ月

右何月何日流産致候間別紙醫師(産婆)流産證相添此段及御届候也

明治年月日

右氏名

町村長氏名殿

◎縁入夫妻
送籍届
養子女

何郡何村大字何々番地
族氏名何弟姉妹
(亡)(父名何男女)

右者何縣何郡何村何番地族氏名入夫(妻縁女養子女)ニ差遣候間送籍相成度此段

及御届候也

(以下全上)

◎入夫(妻)離婚
養子女離縁
相續人離縁
送籍届

何郡何町何番地
族氏名入夫妻
養子女相續人

右者何縣何郡何村大字何々番地族氏名方(離婚(離縁)復歸爲致候間送籍相成度此段御届候也 (以下出生届ニ全シ)

◎退隠跡相續届

何郡何村何番地
族氏名父氏名

右父名退隠長男相續致候間此段及御届候也

明治年月日

村長宛

右氏名
氏名

◎亡籍相續届

何郡何村何番地
族亡父氏名何男

右父名何月何日死亡ニ付親族協議ノ上何男名相續爲致候間此段及御届候也

明治年月日

右氏名

親族亡父名妻
何郡何村何番地

親族續柄何々氏名
村長氏名殿

◎分家送籍届

何郡何村何番地
族氏名何(男女兄弟姉妹)
(亡父名何男女)

右何縣何郡何村何番地ニ分家爲致候間送籍相成度此段御届申上候也

右(戸主)

明治年月日

村長宛

何某

◎分家入籍届

何郡何村何番地
族氏名妻氏名

右何縣何郡何村何番地族氏名何男(兄弟)分家致候ニ付入籍相成度此段及御届候也

明治年月日

地主氏名
氏名

村長宛

◎管内分家届

何郡何村何番地
族氏名(亡)父名何男

右者本郡本村大字何番地族氏名兄弟分家致候間編籍相成度此段及御届候也

年月日

右 氏名
右戶主 氏名
(是ハ分家地ノ地主ナリ)
右地主 氏名
村長 宛

◎離婚(縁)復歸ニ付携帶者入籍届

何郡何番地
族氏名(孫)(甥)(姪)
(父)(母)名何男女

右ハ何縣何郡何村何番地族氏名(男女)ヲ
(父母名)(兄弟姉妹名)(離婚縁)復歸ニ
付携帶致候間入籍相成度此段及御届候也
(以下出生届ノ例ニ全シ)

◎入夫妻離婚
養子女離婚
相續人離婚
ニ付携帶者送籍届

何郡何村何番地
族氏名何男女(孫)

(養氏名何男女) 名

右名何縣何郡何村何番地族氏名方(離婚縁)復歸ニ付何名ヲ携帶爲致候間送籍相成度此段及御届候也

(以下出生届ノ例ニ全シ)

◎管内結婚届

何郡何村何番地
族氏名 妻 婦
入夫
何男名妻 名

右者本郡何村何番地族氏名(何女ヲ娶リ)
(何男ヲ貰受)候間戶籍加除相成度双方連署此段及御届候也

年月日

右 氏名
村長氏名宛

◎管内(離婚)(離縁)届

何郡何村何番地
族氏名(入夫、妻、養、嗣子(何男縁女)女(名) 名

右者本郡何村何番地族氏名方(離婚)離縁(復歸爲致候間戶籍加除相成度双方連署此段及御届候也

年月日

右 氏名
村長 宛

◎携帶者入籍届

何郡何村何番地
族氏名 入夫 名何男
妻 名何女

右者何縣何郡何村何番地族氏名(孫)(父)結
婚ニ付携帶致候間入籍相成度此段及御届候也
(以下出生届ノ例ニ全シ)

◎轉住送籍届

何郡何村何番地
族氏名方全届 族

父 氏 名
母 氏 名
妻 氏 名
何 男 名

右者何縣何郡何番地へ轉住致候間送籍相成度此段及御届候也

年月日

右 氏名
戶主 氏名
右地主 氏名
村長 宛

◎管内縁組届

何郡何村何番地
族氏名 養子何女名婿
何男何縁女

右ハ本郡何村何番地族氏名何(男女)ヲ賞受候間戸籍加除相成度双方連署此段及御届候也

年月日 右 氏氏 名名

村長宛 ◎管内轉住届

何郡何村何番地 族氏 父母妻 名名名名

右ハ本郡何村何番地ヨリ轉住致候間戸籍加除相成度此段及御届候也

村長宛 右 右地主氏 元地主氏 名名名

◎失踪届 失踪全戸ナルトキハ親戚ヨリ戸主ナルトキハ家族親戚ヨリ届出ヘシ

何郡何村何番地 族(氏名)(何男兄弟) 氏 名

右何月何日(家出ノ儘何旅行地へ何月何日何地ヨリ音信ノ儘)所在不相分依テ失踪ノ義ト存候間此段及御届候也

年月日 右 右名何男 氏 氏 名 名

村長宛 ◎改名届

何郡何村何番地 族 改氏 氏 名 名

右何月何日願濟前書之通り改名致候間此段及御届候也

(以下出生届ノ例ニ全シ)

◎廢嫡届

何郡何村何番地 族氏名何名女 名

右者廢嫡ノ儀何月何日願濟ニ付此段及御届候也 (以下出生届ノ例ニ全シ)

◎廢戸主届

何郡何村何番地 族 氏 名

右何月何日廢戸主願濟ニ付此段及御届候也

年月日 何郡何村何番地 親族續柄何々 氏 名

村長宛 ◎身分證明願

郡村大字番地(平民)士族

何之誰

何年何月生

一何年何月何日生當年何才

一兵役ノ關係有無(又ハ何兵)

一處罰ヲ受ケタルコト有無

一身代限ノ處分ヲ受ケタルコト有無

右御證明被成下度願候也

年月日 右 何之誰 村長宛 ◎親族證明願

郡村大字番地(平民)士族

何之誰

右ハ訴訟(又ハ何々)事件ニ必用ニ付拙者ノ親族(何々)タルコトヲ御證明被成下度此段奉願上候也

年月日 郡村大字番地 何ノ誰 村長宛

◎埋葬認許證下付願

郡村大字番地(平民)士族
何ノ誰ノ何々

何ノ誰

一明治何年何月何日午前午後何時死亡

一全年全月何日午前何時埋葬

一埋葬地何村何字何番地何々墓地

右埋葬仕度候間認許證明下付被成下度別

紙醫師死亡届相添此段奉願候也

年月日 右戸主

村長宛

何之誰

◎戸籍寫下付願

今般何々用ニ必用ニ付拙者戸籍寫何葉御
下付被成下度奉願上候也

郡村大字番地

年月日

何之誰

村長宛

◎自家用料酒製造免許申請

製造酒類

一濁酒

一第二種造石數壹石迄

一直接國稅納額何十圓

製造方法

一酒母何升 但シ買入

一白米何升

一麴米何升

一仕込水何升

此見込濁酒何斗

但シ白米ヨリ何割何
分ノ見込何個仕込

製造時期

一明治何年月日

右自家料用酒類製造致度候間御免許相成
度此段申請候也

郡村大字番地

何ノ誰

何々稅務管理局長
司稅官何之誰殿

◎私生子引受入籍届

何郡何町村何番地

族氏名子

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地族氏名何女名私生

何男、女ヲ實子ニ付引受ケ候間入籍相成

度此段及御届候也

右

年月日

氏名

村長宛

◎後見人届

何郡何村大字番地

族

氏名

右氏名幼年(瘋癲)(白痴)ニ付親族協議ノ

上何郡何村大字何々番地族氏名ヲ以テ後

見人ト相定メ候ニ付此段及御届候也

郡村大字番地

親族續柄何々氏名

郡村大字番地

親族續柄何々氏名

右後見人何名

村長氏名殿

備考

一全家族内ニ於テ實父ノ後見ヲ爲ス場合

ニ於テハ親族ノ協議ヲ要セス

一後見人變換届ハ(右氏名後見人某ヲ解

除シ更ニ親族協議ノ上)ト記スヘシ次

ニ元后見人ヲモ連署スル者ナリ

一後見人解除届ハ(右氏名後見ノ處本月

氏名丁年ニ至リ候ニ付後見解除致候間

此段及御届候也)トシ被后見人及ヒ後

見人共連署スヘシ

◎印鑑届(家族ノ内印鑑ハ戸
主必ス連署スヘシ)

郡村大字番地
(印)印鑑 族 氏 名
右印鑑及御届候也

年月日 右 氏 名
村長氏名殿

◎改印届
紛失又ハ遺失ノ節ハ
警察署へ願濟ノ旨ヲ
連署スヘシ

(印)印鑑 族 氏 名
何郡村大字番地

右ハ舊印欠損、紛失、焼失、磨滅、遺失、ニ
付印鑑ノ通り改刻致候間此段及御届候也

年月日 右 氏 名

村長氏名殿
◎改肉届

郡村大字番地
印鑑 族 氏 名

右ハ黒肉ヲ朱肉ニ改メ候間此段及御届候

也
年月日 右 氏 名
村長氏名殿

◎代納入届

縣郡村大字何字何々何番
一地目反別何程 郡村大字番地

(以下做之) 所有者 何 之 誰
代納入 郡村大字番地 何 之 誰

右之地所私所有ニ有之候處該地所ニ係ル
地租ハ勿論其他ノ諸稅等前記某ヲ以テ納

稅爲致候間徵稅傳令書全人方へ御配達相
成度連署ヲ以テ此段及御届候也

年月日 右

何々村長何之誰殿

何 之 誰

◎豫備後備下士兵卒歸休兵願届

一聯隊區司令官宛ノ願届共監視區長ヲ經

テ差出スヘシ

一願届ノ書体ハ階行ニ限り又壹通マルヘシ

一用紙ハ半紙一ツ折マルヘシ

一近衛師團豫備後備下士兵卒ニ在リテハ
願届書中年度兵種族上ニ近備ノ二字ヲ
冠スヘシ

◎結婚願

何縣郡市町村大字番地

住族職業

何某女(姉)(妹)

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

某 儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト(へ入夫)

(一(聳養子)結婚致度依テ別紙身元證書相
添へ指出候間御許可被下度此段奉願候也

縣郡市町村大字住

明治何年徵兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日 何 某

何聯隊區司令官姓名殿

◎婚姻濟届

何縣郡村大字番地

住族職業何某何女

某

年號月日生

年號何年何ヶ月

明治何年月日御許可相成候ニ付何年月日

(入夫)(聳養子)婚姻相整へ候間此段御届

申上候也

縣郡村大字番地住

明治何年徵兵々種番號

何年豫備(后備)役何等卒

年月日 何 某

何々聯隊區司令官姓名殿

備考

豫備后備下士ニ在リテモ此書式ニ據ルヘシ

市町村長ヲ經テ届出ヘシ

◎勤務演習召集猶豫(簡閱點)呼免除願

今般勤務演習召集(簡閱點呼)御達相成候處何々候間今回ノ演習召集猶豫(簡閱點呼免除)、御許可被下度此段奉願候也

何縣郡村大字番地住

明治何年徵兵々種番號

何年豫備(后備)役何等卒

年月日

何々聯隊區司令官姓名殿

備考

一豫備后備下士ニ在リテモ此書式ニ據ルヘシ

一市町村長ノ奥書調印ヲ要ス

◎寄留地簡閱點呼及ヒ諸召集願

明治何年何月何日迄何縣何郡村大字番地何某方へ寄留中該地ニ於テ簡閱點呼及ヒ同地ヨリ諸召集ニ應度候間此段奉願候也

縣郡町村大字番地住

明治何年徵兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何々聯隊區司令官姓名殿

備考

一豫備後備下士ニ在リテモ此書式ニ據ルヘシ

一本籍市町村長ノ奥書證印ヲ要ス

一寄留地ヨリ應召ノ許可ヲ得タルトキハ出發ニ先チ旅費受領人ヲ定メ豫メ委任狀ヲ渡シ置キ其人名ヲ聯隊區司令官へ

届出ヘシ

◎旅費受領人届

某儀

寄留地ヨリ召集ニ應スル事ヲ許可相成候ニ付テハ其年限中召集ノ際出營旅費受領人ハ何郡村大字番地住何某へ委任致置候間此者へ御渡シ相成度此段御届申候也

縣郡村大字番地住

明治何年徵兵々種番號

何年豫備(后備)役何等卒

年月日

何々聯隊區司令官姓名殿

備考

一豫備后備下士ニ在テモ此書式ニ據ルヘシ

一市町村長ヲ經テ監視區長ニ差出ヘシ

◎勤務演習召集願

明治年月日迄縣郡村大字番地何某方へ寄

留中同師管(同旅管)ニ於テ勤務演習召集ニ應度候間此段奉願候也

縣郡村大字番地住

明治何年徵兵々種番號

何年豫備(后備)役何等卒

年月日

何々聯隊區司令官姓名殿

備考

一豫備后備下士ニ在リテモ此書式ニ據ルヘシ

一本籍市町村長ノ奥書調印ヲ要ス

一師管外(歩兵ハ旅管外)ニ寄留ノ者ニ限

備考

一證明ハ警察ナキ地ニ在テハ警察分署若クハ巡查駐在所ノ證明書ヲ添附スヘシ然ルトキハ文中警察署アルヲ訂正スヘシ

一豫備後備下士及暇休兵ニ在テモ此書式

ニ據ルヘシ
一市町村長ノ與書調印ヲ要ス

◎歸郷届

某 儀
何隊ニ於テ服役罷在候處何月何日現役満期(願)(病)ニヨリ現役免除(何飯休)被申付何月何日飯宅致候間此段御届申候也

何縣郡村大字番地住

明治何年徴兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何監視區長姓名殿

備考

一豫備后備下士飯休兵ニ在ツテモ此書式ニ據ルヘシ

一演習招集解散、寄留、旅行(逃亡)失踪等ノ者飯宅セシトキハ何隊以下被申付迄ヲ(演習招集應徴ノ處解散)(何府縣郡村大字某寄留(旅行)ノ處何年月日ヨリ失踪逃

亡ノ處)ト記スヘシ

一逃亡失踪ノ者飯宅セシトキハ始末書ヲ添へ届ケ出ヘシ

一市町村長ヲ經テ届出ヘシ

◎出産届

何 某
何月何日(弟)(妹)(何男)(何女)出生某ト命名致候間此段御届申候也

縣郡村大字番地住

明治何年徴兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何監視區長姓名殿

備考

一豫備後備下士及ヒ飯休兵ニ在テモ此書式ニ據ルヘシ
一市町村長ヲ經テ届出ヘシ

◎死亡届

(某儀父母兄弟姉妹妻子)何某何月何日死亡致候間此段御届申候也

縣郡村大字番地住

明治何年徴兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何監視區長姓名殿

備考

一豫備後備下士飯休兵ニ在テモ此書式ニ據ルヘシ

一市町村長ヲ經テ届出ヘシ

◎寄留(旅行)届

何 某
今般何々ノ爲メ何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ縣町村大字番地某方へ全戸(單身)寄留(旅行)致候間何郡村大字番地何某ヲ以テ通達人ニ相定メ此段御届申上

候也

縣郡村大字番地住

明治何年徴兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何監視區長姓名殿

備考

一豫備後備下士及ヒ飯休兵ニ在テモ此書式ニ據ルヘシ

一市町村長ヲ經テ届出ツヘシ

◎死亡届

何 某
何縣何郡村大字番地住
明治何年徴兵兵種番號
何年豫備(后備)役何等卒
右之者何々ニヨリ何月何日死亡致候間此段御届申上候也

何縣郡村大字番地住

戸主(本人戸主ナレハ親族)

年月日 何 某

何監視區長姓名殿

備考

一豫備后備下士及ヒ飯休兵ニ在テモ此書式ニヨルヘシ

一市町村長ヲ經テ届出ツヘシ

郡役所及稅務署ニ要スル諸願書式 (〇ハ朱書)

◎地所開墾届

大字何々

何番 (全筆開墾ノ例)郡(市)町村字何々 地主 某

一山林反別何程畑ニ開墾 何 某

地價金何程

地租金何程

但明治何年何月ヨリ着手

何番 (一筆ノ内幾分ヲ點々開墾ノ例)字何々 地主

一原野反別何程 何等町金何程 某

地價金何程 内

地租金何程

反別何程

地價何程

地租金何程

反別何程

地價何程

地租金何程

反別何程

地價何程

地租金何程

但明治何年何月ヨリ着手

(素地据置地價地租ヲ算出シ)本反別地價地租ノ内ヨリ据置ノ地地價地租ヲ引去リ殘ル地價地租ヲ開墾地ノ地價地租トス

總計 (二筆以上ニ涉ルトキハ此式ニ倣ヒ總計ヲ付スヘシ)

| | | | |
|----|----------|------|------|
| 山林 | 地目反別地價地租 | 開墾地目 | 着手年月 |
| | | | 何年何月 |

御届仕候也

右地主

年月日

何 某

知事宛

| | |
|----|---|
| 原野 | 田 |
| 原野 | 畑 |
| 計 | |

右者今般開墾可仕候ニ付圖面相添ヘ此段

土地ニ關スル諸願書式

一 項 分裂開墾地ニ對シテハ全筆ノ元額掲記ヲ要セズ

二 項 年期明ニ際シ成功ト繼年期ト分裂スルトキノ地價地租金算出方ハ繼年期ノ反別ヘ町金ヲ乘シ而シテ該員數ヲ開墾願額ノ内ヨリ扣除其殘額ヲ成功地ノ額トス

三 項 合計元地ノ筆數記入方ニ於テ分裂ニ係ル分ハ黑書スヘシ

但分裂ト雖モ殘地ナキモノハ一筆ト見倣シ他ノ一方ヘノミ朱書スヘシ

四 項 開拓地畝ト年期明地價取調書ハ書式中ノ目的地目掲記ヲ要セズ

五 項 開墾ヲ假令ハ最初五畝歩出願ニ對シ三畝歩成功シタルトキハ殘貳畝歩ハ廢止

又七畝歩成功シタルトキハ貳畝歩ハ年期反別ノ誤認ヲ特ニ申出ツヘシ

一 飛地組替地ニシテ賦除租ニ際シ反町金使用方ハ元額ニ關スルモノハ組替以前

ノ大字ノ分其他ハ組替濟大字ノ分ヲ用フヘシ

六 項 開墾年期明等ニシテ元反別ト賦稅反別ト増減ナキ場合ニアリテ尙哇畔若干生

- シタルトキハ單ニ反別若干畦畔成ト掲記スヘシ以下每號其種類ヲ同フスルモノ亦同シ
- 一 新開地ノ素地目ハ書式中地目ノ欄ニ掲記スヘシ
 - 七項 各地主各別ニ之ヲ差出スヘシト雖モ同町村内ノ土地ニシテ其上申同時ナレハ成ルヘク其上申書モ一同列記シテ之ヲ差出スヘシ
 - 八項 字体ハ成ルヘク楷書又ハ行書ヲ用フヘシ
 - 九項 反別金員ノ(一二十)ハ(壹貳拾)ヲ用ヒ反別ノ内(貳拾步)ニ限り(廿步)ト記載スヘシ
 - 十項 書式中第三欄ノ地目ハ第一條ノ大地目ヲ記入シ其左傍ニ現地目ノ名稱ヲ記載スヘシ
 - 十一項 書面ニ連署スヘキ地主多數ナルトキハ其地主中ヨリ二名以上ノ惣代人ヲ撰ミ之ヲシテ連署セシムルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ每筆ニ記載セシ地主氏名ノ下ニ捺印スヘキモノトス
 - 十二項 地主中他ノ町村ニ住居スヘキモノハ其同郡ハ町村名ヲ其他郡ハ郡町村名ヲ其他國ハ國郡町村名ヲ氏名ノ肩書ニ記入スヘシ
 - 十三項 書面調製方ハ總テ字及番號順ニスヘシ
 - 十四項 雛形欄内中記載スヘキ事故ナキモノハ其儘空欄ニ爲シ置クヘシ

- 十五項 表紙ハ差出スヘキ調書ヘ編綴ヲ要セス
- 十六項 地圖ハ壹通添付スヘシ
- 十七項 員數ハ數字ヲ用フルモ妨ケナシ
- 十八項 僅少ナル一筆限調書及合計記載方ハ適宜タルヘシ
- 十九項 大字ニケ以上ノ合計ハ每字便宜區分スヘシ
- 二十項 飛地組替地ニシテ修正ニ際シ反町金使用方ハ元額ニ關スルモノハ組替以前ノ大字ノ分其他ハ組替濟大字ノ分ヲ用フヘシ
- 廿一項 地價ヲ更定スルトキハ其地地位等級ニ相當スル反(町)金ヲ以テ本地ノ反別ニ乘シテ之ヲ定ム其反別ノ歩位三除ノ數ニ適セサルトキハ之ヲ坪數ト爲シ反(町)金ヲ乘シ而シテ後三除スヘシ
- 廿二項 反(町)金トハ壹反步又ハ壹町步當リ地價金ヲ云フ其第一類地ハ反金トシ繼ニ類地ハ町金トス
- 廿三項 元地ニ對スル畦畔増減ハ假令ハ元拾步アリテ修正其儘拾步アリ尙若干步新規ニ生シタルモノトセハ元反別及修正反別腹書ニ各拾步ヲ記入新規ノ分ハ畦畔ノ欄ヘ記入而シテ合計モ各區分記入スヘシ
- 廿四項 分裂廢除セントスルモノハ元畦畔ノ欄ヘ何畝步ノ内何步ト記入スヘシ
- 廿五項 地價地租金ノ算出方ハ各地價地租金ノ内ヨリ元地價地租金ヲ扣除シ其殘額

ナ睦畔地成ノ地價地租金トス

廿六項 各地主各別ニ之ヲ出願スヘシト雖モ同町村内ノ土地ニシテ其出願同時ナレハ成ルヘク其願書モ一同列記テ之ヲ差出スヘシ

廿七項 地目變換修正以前ノ土地ハ反別ノ腹書ニ其旨記入スヘシ

廿八項 誤謬發見ノモノハ隣地主連署ノ上別途出願スヘシ

廿九項 但シ此場合ニ於テハ元額ノ次ニ現在額其次行ヘ増減差額トモ記入スヘシ

元地ニ對スル睦畔増減ハ反別腹書ニ記入スヘシ

三十項 合計ニテ官地拂下ト無代下渡地ト同月ナルモノ内譯ニ記載スヘシ

卅一項 月割地租上納ノ算出ハ全年分ノ地租金ニ其年上納スヘキ月數ヲ乘シ實トシ

十二ヶ月ヲ以テ除キタルモノヲ其上納金トス又全年分ノ地租金ヨリ月割上納金ヲ

扣除シタル殘額ヲ翌年ヨリ増スヘキ地租金トス

卅二項 開拓地歟下年期ヲ要スルモノハ書式中反町金ノ下地租ノ欄ヘ其年期ヲ記入スヘシ

卅三項 開拓地ニ限り情願ニ依リ直チニ一類地ニ爲スコトヲ得ヘキニ付其場合ニ於

テハ其文中ヘ其旨ヲ明記スヘシ

卅四項 年期ヲ付與セサル開墾ヲ共ニ申出ントスルモノハ書式中事由欄ヘ着手年月ヲ記入スヘシ

卅五項 開墾歟下年期ヲ要スルモノハ書式中事由欄ヘ其年期ヲ記入スヘシ

卅六項 年期ヲ要スルモノ、其目的地目ハ等級欄ヘ記入スヘシ

卅七項 舊道拂下又ハ下渡地ニシテ數筆連續スルモノハ全体ノ形様ヲ顯ハシタル地

圖共添付スヘシ

卅八項 壹筆ノ内裂地セントスルハ假令ハ一番地ヲ二個ニ分ツモノハ一番ノ一、

二、トナシ尙又一番ノ一或ハ二ヲ分裂スルハ一片ハ元號ニ據置地ノ一片ハ一番

ノ三ト記スヘシ又右ニ反シ兩筆ヲ合併スル者ハ兩番ヲ存置何番合筆ト記入スヘシ

卅九項 一筆ノ内幾部分ニ係ルモノハ殘地ヲモ丈量スヘシト雖モ第二類地ニシテ差

違ナシト見認ムルモノハ丈量ニ及ハス

四十項 分裂ノ丈量ニ係ルモノハ(一)二ノ符合ヲ第三圖ノ如ク朱書スヘシ

四十一項 隣地ハ總テ小地目ヲ記入スヘシ

四十二項 一筆中幾部ノ開墾或ハ官地拂下地等ノ分ハ其全筆ノ形様ヲ顯シ而シテ其

賦課ニ係ル分ヲ丈量シテ記入スヘシ

(〇ハ朱書)

明治何年何月

開墾歟下年期明地價取調書

何郡 何町 村

田反別壹反壹畝拾貳步

內反別拾五步

外反別參步

反別參步

此地價金四拾貳圓六拾參錢

此地租金壹圓六錢六厘

內

○反別七畝步

○此地價金貳拾壹錢

○此地租金五厘

反別七畝拾五步

內反別拾五步

此地價金貳拾六圓貳拾五錢

此地租金六拾五錢六厘

○元反別四畝步

○此地價金貳拾錢

○此地租金五厘

○畑目的明治十二年ヨリ
同二十一年マテ 十ヶ年 一筆

貳筆

丈量增

丈量減

畦畔成

壹筆

丈量增

○明治十七年ヨリ
同二十一年マテ 五ヶ年 壹筆

反別參畝廿七步反

○別參步

外

反別參步

此地價金拾六圓參拾八錢

此地租金四拾壹錢

○原野反別八畝步

○此地價金參拾貳錢

○此地租金八厘

畑反別壹反拾貳步

內反別貳畝拾貳步

此地價金貳拾六圓

此地租金六拾五錢

壹筆

丈量減

畦畔成

○明治十七年ヨリ
同二十一年マテ 五ヶ年 一筆

壹筆

丈量增

一登錄稅合計若干

右、昨明治何年歛下年期滿限ニ付地價御査定相成度野取圖相添此段及上申候也

(開墾歛下年期明地價取調書ノ分)

右、昨明治何年開墾着手ノ處成功ニ付地價御査定相成度野取圖相添此段及上申候也

(開墾成功地價取調書ノ分)

右、昨明治何年新開免租滿限ニ付地價御査定相成度野取圖相添此段及上申候也
 (新開免租年期明地價取調書ノ分)
 右、昨明治何年新開免租滿限ニ付地價御査定相成度野取圖相添此段及上申候也
 (開拓地銀下年期明地價取調書ノ分)
 右、昨明治何年新開免租滿限ニ付地價御査定相成度野取圖相添此段及上申候也
 (耕地變地價据置年期明地價取調書ノ分)
 右、昨明治何年地目變換地價据置年期明地價御査定相成度野取圖相添此段及上申候也
 (地目變換地價据置年期明地價取調書ノ分)

年月日

右地主

氏名印
 氏名印
 氏名印

福島縣知事 氏名宛

年月日

町村長 氏名印

前書之通相違無之候也

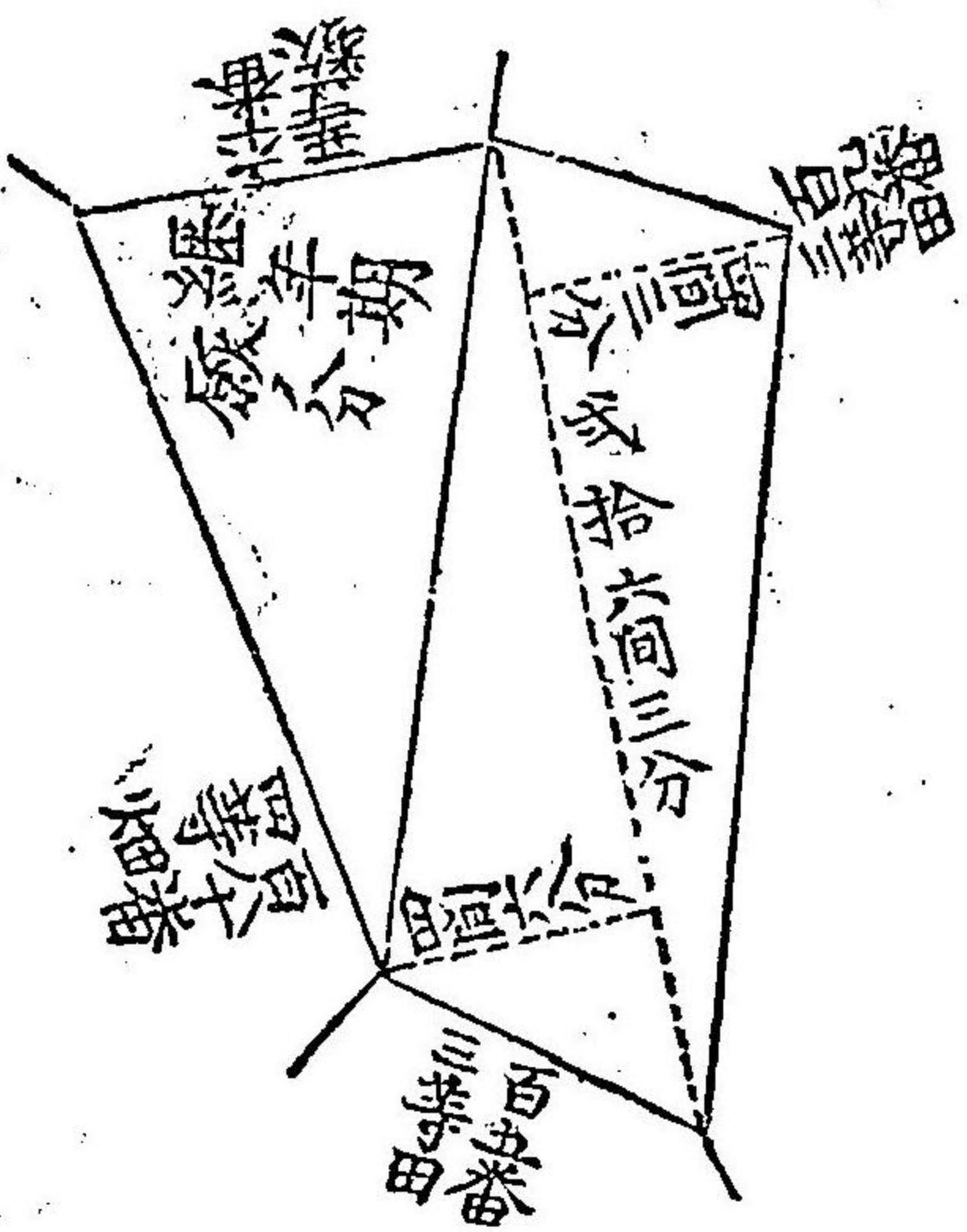
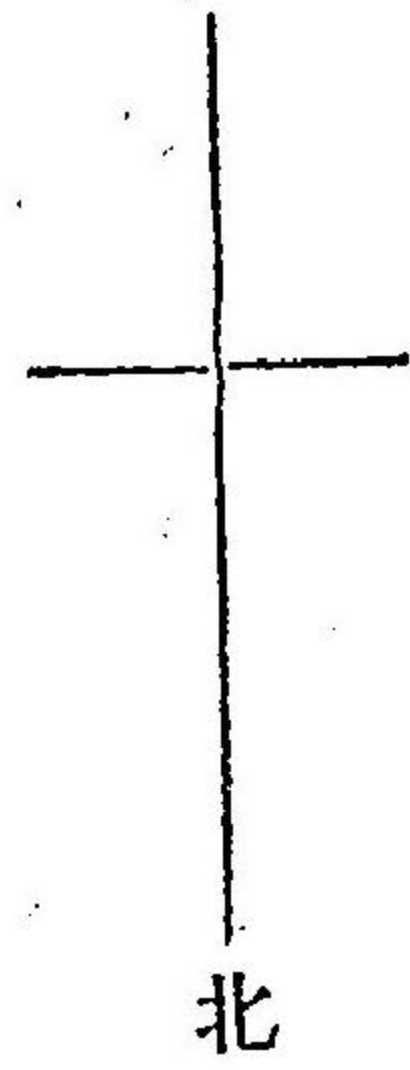
(第二號)

(一七八朱線)

開墾地銀下年期明野取圖

何町村

大字何 田 三等
 字村東 田 壹枚
 百拾番ノ二 壹枚
 一田反別三畝廿七步
 外反別參步 畦畔成



貳百三拾四坪七夕

此三除百拾七坪

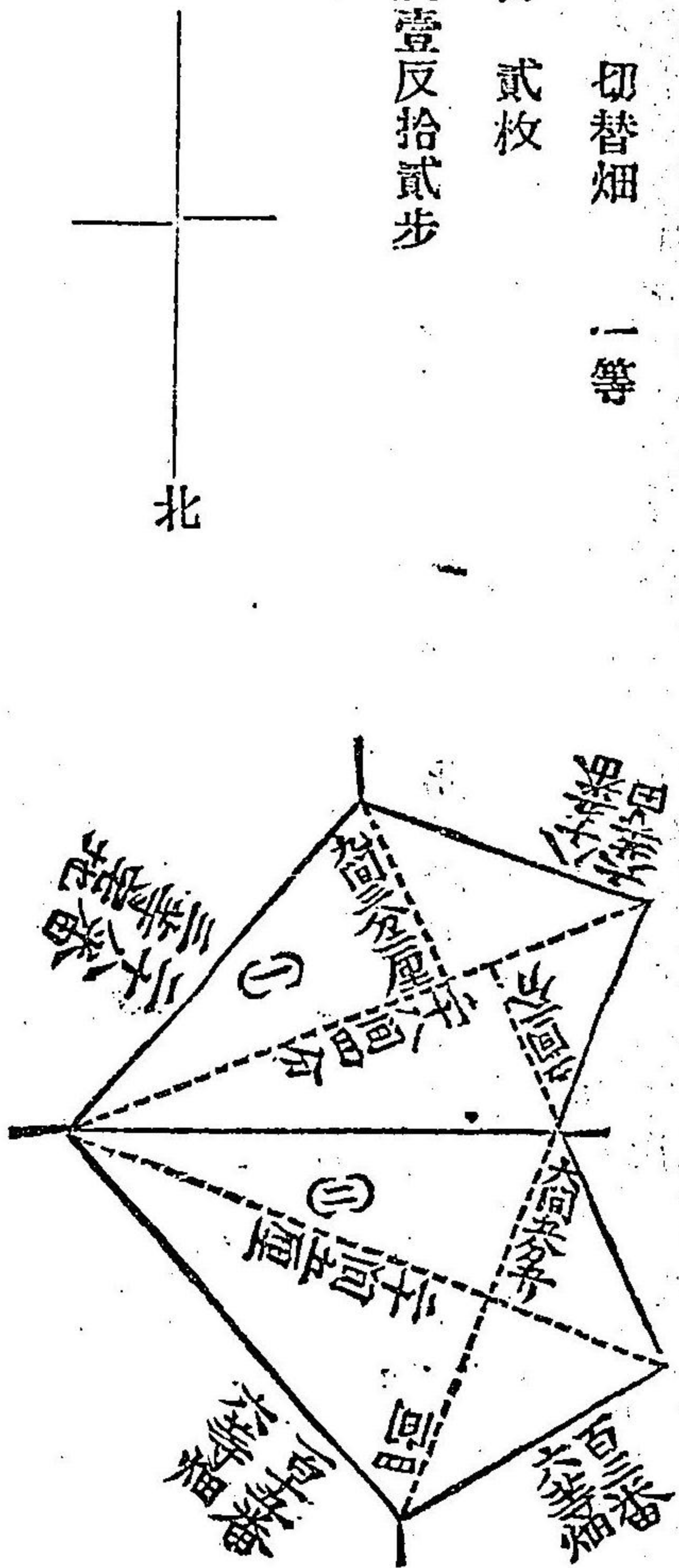
三寸五才

以下同

地主

氏名

大字何 切替畑 一等
 字村東 百十八番 貳枚
 一畑反別壹反拾貳步

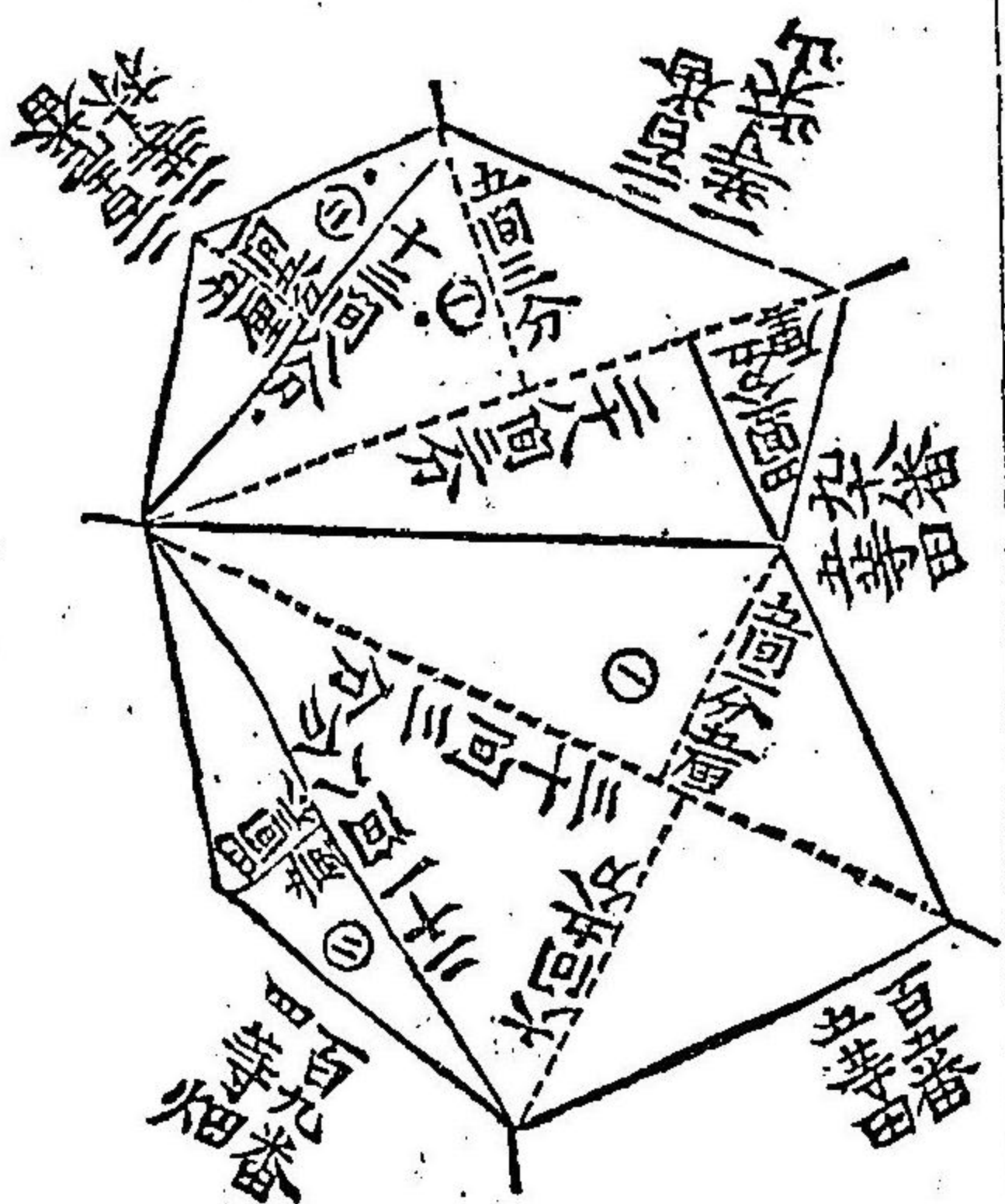
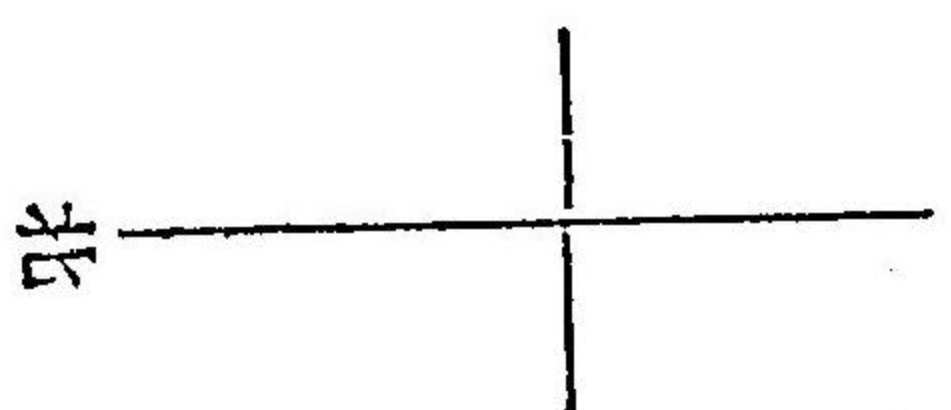


(一) 四百拾三坪貳合貳夕
 (二) 貳百拾壹坪五合貳夕七才五
 計六百貳拾四坪七合四夕七才五
 此二除三百拾貳坪

三合七夕三才壹

地主 氏名

大字何 田 五等
 字上田 百三番ノ二 貳枚
 一田反別七畝拾五步
 同番ノ一
 一山林反別五畝步



(一) 貳百七拾八坪七合五夕五才
 (二) 貳拾壹坪三合九夕
 計三百坪壹合四夕五才
 此二除百五拾坪 七夕貳才五

(一) 三百五拾六坪貳夕五才
 (二) 九拾四坪八合三夕
 計四百五拾坪八合五夕五才
 此二除貳百貳拾五坪 四合貳夕七才五

地主 氏名

右、開墾地、下年期明、二付、每筆地盤丈量候處前記之通相違無之候也。

年月日

右地主

氏名印

氏名印

氏名印

福嶋縣知事 氏名殿

前書之通相違無之候也

年月日

町村長 氏名

名印

明治何年何月

地目 變換 地價取調書

何郡

何町村

| 大字 | 番 | 大地目等 | 反別 | 丈量増減 | 地價 | 地租 | 登錄稅 | 反町金事由 | 地主氏名 |
|----|---|------|-------|----------|--------|---------|-----|-------|------|
| 大木 | 九 | 田 | 六〇三畝步 | | 〇九圓三錢 | 〇貳拾三錢三厘 | | 〇三拾壹圓 | |
| 澤 | | | | | | | | | |
| 甘那 | | | | | | | | | |
| 田 | | | | | | | | | |
| 畑 | | | 三畝拾五步 | 內拾五步 丈量増 | 拾圓八拾五錢 | 貳拾七錢五厘 | | 三拾壹圓 | 氏名 |

| 市街 | 宅地 | 三 | 拾五步三合六分 | 內貳步三合六分 丈量増 | 四圓九拾錢五厘 <th>拾貳錢三厘</th> <th></th> <th>九拾六圓</th> <th>氏名</th> | 拾貳錢三厘 | | 九拾六圓 | 氏名 |
|----|-------|---|---------|-------------|--|-------|--|-------|----|
| 田 | 六〇拾三歩 | | | | 〇三拾四錢三厘 | 〇三錢四厘 | | 〇三拾壹圓 | |

合計

〇元反別三畝拾三歩

〇貳筆

〇此地價金拾圓六拾四錢三厘

〇此地租金貳拾六錢七厘

一反別四畝步三合六分

內反別拾七步三合六分

此地價金拾五圓七拾六錢五厘

此地租金參拾九錢四厘

〇田反別三畝步

〇壹筆

〇此地價金九圓參拾錢

〇此地租金貳拾參錢參厘

畑反別三畝拾五歩

壹筆

內反別拾五步

丈量增

此地價金拾圓八拾五錢

此地租金貳拾七錢壹厘

○田反別拾三步

○壹筆

○此地價金壹圓參拾四錢參厘

○此地租金參錢四厘

市街宅地反別拾五步三合六勺

壹筆

內反別貳步三合六勺

丈量增

此地價金四圓九拾壹錢五厘

此地租金拾貳錢三厘

一登錄稅合計若干

右ハ今般地目變換致候ニ付地價御査定相成度野取圖(第二號ニ準スヘシ)相添此段及

上申候也 (地目變換地價取調書ノ分)

右ハ今般地類變換致候ニ付地價御査定相成度野取圖(第二號ニ準スヘシ)相添此段及

上申候也 (地類變換地價取調書ノ分)

年月日

右地主

名印

氏名印

福嶋縣知事 氏名 殿

前書之通相違無之候也

年月日

町村長 氏名印

明治何年何月

何郡 何町 村

土地分裂御届

| 大字 | 番 | 大地目 | 等級 | 反別 | 地價 | 地租 | 登錄稅 | 年期 | 反町事由 | 地主名 |
|----|-----|-----|--------|-----------------|-----------|-----------|-----|----|---------|-----|
| 字 | ○七 | ○田 | ○三 | 壹反貳畝步 外拾五步畔畔 | ○六拾三圓七拾貳錢 | ○壹圓五拾九錢三厘 | | | ○五拾三圓拾錢 | |
| 同 | 一ノ七 | 田 | 三四畝步 | 外拾步畔畔 | 貳拾壹圓貳拾四錢 | 五拾三錢壹厘 | | | | 氏名 |
| 同 | 二ノ七 | 田 | 三三畝拾四步 | 外五步畔畔 | 拾八圓四拾錢 | 四拾六錢 | | | | 氏名 |
| 同 | 三ノ七 | 田 | 三五畝步 | | 貳拾壹圓五拾錢 | 六拾六錢壹厘 | | | | 氏名 |

前書之通相違無之候也

年 月 日

○備考 合計ノ部へハ全ク増減ニ係ル員數ノミヲ掲クヘシ

町村長 氏 名 印

明治何年何月

哇 畔 廢 除 願

何 郡 何 町 村

| 大字 | 番地 | 目等 | 反別 | 元哇畔 | 丈量増減 | 地價 | 地租 | 登錄稅 | 反金 | 地主氏名 |
|-----|----|----|-------|-------|------|----------|---------|-----|--------|------|
| 平澤 | 五 | 田 | 五 | 四畝三步 | ○壹畝步 | ○拾四圓三拾五錢 | ○三拾五錢九厘 | | | |
| 笹谷 | | | ○壹畝 | 內三步 | 丈量増 | 三圓八拾五錢 | 九錢六厘 | | 三拾五圓氏名 | |
| 水七草 | 八 | 畑 | ○合 | ○五畝六步 | | ○拾八圓拾錢 | ○四拾五錢五厘 | | | |
| 高田 | | | ○四畝拾步 | ○貳拾四步 | | ○九圓六拾八錢 | ○貳拾四錢貳厘 | | | |
| | | | 貳拾九步 | 內五步 | 丈量増 | 貳圓拾貳錢七厘 | 五錢三厘 | | 貳拾貳圓氏名 | |

| 御察 | 村中 | 十 | 田 | 四 | 八畝五步 | ○貳畝三步 | ○拾壹圓八拾錢七厘 | ○貳拾九錢五厘 | | |
|----|----|----|-------|------|------|-------|-----------|---------|--|-------|
| | | ○合 | ○壹反六步 | 貳畝壹步 | 外貳步 | 丈量減 | 八圓拾三錢三厘 | 貳拾錢三厘 | | 四拾圓氏名 |
| | | ○合 | ○五畝拾步 | | | | ○拾壹圓八拾錢七厘 | ○貳拾九錢五厘 | | |

合計

○元反別三畝廿七步

一反別四畝三步

內反別八步

外反別貳步

此地價金拾四圓拾壹錢

此地租金三拾五錢貳厘

○元反別三畝三步

三筆

丈量増

丈量減

田反別三畝四步
 內反別三步
 外反別貳步
 此地價金拾壹圓九拾八錢三厘
 此地租金貳拾九錢九厘
 元反別廿四步
 畑反別廿九步
 內反別五步
 此地價金貳圓拾貳錢七厘
 此地租金五錢三厘
 一登錄稅合計若干
 右畦畔廢除ノ上本地へ量入致度候條地價御査定相成度野取圖(第二號ニ準スヘシ)相
 添此段奉願候也

年月日
 右地主
 何縣知事氏名殿
 氏名印
 氏名印

前書之通相違無之候也

年月日

町村長氏名印

明治何年何月
 畦畔新設免租願
 何郡何町村

| 大字 | 番地目 | 等級 | 反別 | 地價 | 地租 | 登錄稅 | 反金 | 事由 | 地主名 |
|----|-----|----|------|--------|------|-----|-----|----|-----|
| 內町 | 三 | 田 | 六八畝步 | 貳拾四圓 | 六拾錢 | | 三拾圓 | | 氏名 |
| 花見 | | 畦畔 | 廿步 | 貳圓 | 五錢 | | | | 氏名 |
| | | | 七畝拾步 | 貳拾貳圓 | 五拾五錢 | | | 殘地 | |
| 同 | 六 | 畑 | 七五畝步 | 拾圓 | 貳拾五錢 | | 貳拾圓 | | 氏名 |
| 同 | | 畦畔 | 拾步 | 六拾六錢七厘 | 壹錢七厘 | | | | 氏名 |

| |
|---------|
| ○四畝廿步 |
| ○六畝三錢三厘 |
| ○六畝三錢三厘 |
| ○殘地 |

合計

一反別壹畝步

此地價金貳圓六拾六錢七厘

貳筆

此地租金六錢七厘

內譯

田反別廿步

此地價金貳圓

壹筆

此地租金五錢

畑反別拾步

此地價金六拾六錢七厘

壹筆

此地租金壹錢七厘

一登錄稅合計若干

右ハ前記之通畦畔新設致候ニ付免租相成度野取圖(第二號ニ準スヘシ)相添此段奉願候也

右地主

年月日

何縣知事氏名殿

氏名印

年月日

前書之通相違無之候也

町村長氏名印

明治何年何月 官地 御拂下ニ付地價取調書 何郡 何町村 無代御下渡

| 大字 | 番 | 現地目 | 等級 | 反別 | 事由 | 地價 | 地租 | 登錄稅 | 地主名 |
|----|----|-----|------|----------------------|---------|-------|----|------------------------------|-----|
| 大字 | 八 | 原野 | 壹反步 | 明治二十二年六月何日第何號御拂下許可 | 反金 貳拾五圓 | | | 其年上納月割地租 翌年ヨリ可増地租 二十二年育ヨリ 上納 | 氏名 |
| 大字 | 八 | 田 | 九畝廿步 | 明治二十二年三月何日第何號無代御下渡許可 | 反金 四圓 | 六拾錢四厘 | | 三拾錢貳厘 三拾錢貳厘 三拾錢貳厘 三拾錢貳厘 上納 | 氏名 |
| 小久 | 二十 | 山林 | 貳反步 | | 町金 四圓 | | | 三拾錢貳厘 三拾錢貳厘 三拾錢貳厘 三拾錢貳厘 上納 | 氏名 |
| 大黒 | 二十 | 山林 | 一畝反步 | | 八拾四錢 | 貳錢五厘 | | 壹錢六厘 五厘 | 氏名 |

合計

元反別三反

一反別三反廿步

内反別壹畝步

外反別拾步

○貳筆
貳筆
丈量增
丈量減
畦畔成

此地價金貳拾五圓七厘

此地租金六拾貳錢五厘

内金三拾壹錢八厘

外金三拾錢七厘

二十二年月割上納
翌年ヨリ可増分

内譯

○原野反別壹反步

田反別九畝廿步

外反別拾步

反別拾步

○壹筆
壹筆
丈量減
畦畔成

此地價金貳拾四圓拾六錢七厘

此地租金六拾錢四厘

○御拂下ノ分

内金三拾錢貳厘

外金三拾錢貳厘

二十二年七月ヨリ上納

翌年ヨリ可増分

○山林反別貳反步

山林反別貳反壹畝步

内反別壹畝步

此地價金八拾四錢

此地租金貳錢壹厘

内金壹錢六厘

外金五厘

○壹筆
壹筆
丈量増

二十二年四月ヨリ上納

翌年ヨリ可増分

一登録稅合計若干

右ハ今般御拂下(無代御下渡)相成候ニ付地價御査定相成度野取圖(第二號ニ準スヘシ)及形樣圖共相添此段及上申候也 (官地御拂下ニ付地價取調書ノ分)

右ハ今般御拂下(無代御下渡)相成候ニ付地價御査定及開拓地畝下年期御付與相成度野取圖(第二號ニ準スヘシ)及形樣圖共相添此段奉願候也 (官地御拂下ニ付地價御査定及開拓地畝下年期願ノ分)

右ハ今般御拂下(無代御下渡)相成候ニ付開鑿着手并地價御査定相成度野取圖(第二號ニ準スヘシ)及形樣圖共相添此段及上申候也 (官地御拂下ニ付地價御査定及開拓地畝下年期願ノ分)

開墾御届ノ分

右ハ今般御拂下(無代御下渡)相成候ニ付地價御査定及開墾御下年期御付與相成度野取圖(第一號ニ準スヘシ)及形樣圖共相添此段奉願候也 (官地御拂下ニ付地價御査定及開墾御下年期願ノ分)

年月日

右地主 氏 名印

何縣知事氏名殿

前書之通相違無之候也

町村長 氏 名印

土地臺帳訂正(登録)願

| 大字 | 番 | 元反別 | 現反別 | 丈量 | 此相當 | 登録稅 | 事由 | 地主 |
|----|---|-----|-----|----|-----|-----|------------------|-----|
| 何々 | 何 | 壹畝步 | 壹畝步 | 壹步 | 何拾錢 | 何錢 | 何年何月何日 何第何號許可 | 氏 名 |

右者前記ノ通り官有地又ハ官地御拂下(無代御下渡)御許可ヲ得候ニ付土地臺帳御訂正(又ハ土地臺帳(登録)相成度野取圖相添此段奉願候也)

年月日

右地主 氏 名印

縣知事宛

年月日

市町村長 氏 名印

備考 二筆以上ハ合計ヲ付シ地目毎ニ内譯ヲ爲スヘシ登録稅課稅外ノモノハ第七第八兩欄ヘハ掲記ヲ要セス全筆官有地成ラハ野取圖ノ添付ヲ要セス

◎住所(氏名)異動御届

郡名 町名 大字名字名 番號

何國何郡市町 大字何字何番地 氏 名印

縣知事氏名宛

◎地種組替願 (民有地第種ニ組換ノ例)

右ハ元何國(何郡市)何町村大字何字何々番地ニ居住ノ所后記肩書ノ地所へ轉居或ハ元何々(氏名)ノ所何々(氏名)ト改メ候ニ付前記ノ分土地臺帳御訂正被下成度及御届候也

大字何々(何番)字何々 何郡何村 一田反別何程 地主 何 某 外何程 哇畔

(他ノ地目モ之ニ倣ヘ列記スヘシ)
 右ハ公立學校地(鄉村社地)(墳墓地)(用
 惡水路)(溜池)(堤塘)(井溝)(鐵道用地)
 (禁伐林)(公衆ノ用ニ供スル道路)ノ義出
 願何年何月何日御許可(命令)ニ付民有地
 第二種ニ組替相成度圖而相添ヘ此段相願
 候也

年月日 右
 管理者村長 某
 (地主) 某

◎凡例

一公立學校ハ本願書式文中(出願何年何
 月何日)(御許可命令)トアルヲ(校舍建築
 準備整ヒ候)トシ又敷地ノ區域取廣等ニ
 係ルモノハ其實事ヲ明記スヘシ
 一用惡水路溜池堤塘井溝鐵道用地及ヒ公
 衆ノ用ニ供スル道路ハ工事着手ノ際本願
 手續ヲナスヘシ

一禁伐林ハ本願書式文中出願ノ二字ヲ除
 キ其命令ノ年月日ヲ記載スヘシ
 一用惡水路道路等ニシテ數筆ニ係ルモノ
 ハ其連亘セル圖形ヲ一紙ニ調製シテ之ニ
 四圍接續ノ地目及ヒ地番ヲ記載スヘシ
 一壹筆ノ内幾部分ニ掛ルモノハ土地分裂
 届出認可後本願ノ手續ヲナスヘシ

◎(民有地第一種ニ組替ノ例)
 大字何々
 何番、字何々
 何郡何村

一公立學校地(鄉村社地)(地主)村持
 (溜池)(井溝)(何々)反別何程
 又ハ
 右ハ(何々廢止スヘキ事故ヲ記載ス)ノ爲
 ヲ使用廢止ノ儀出願何年何月何日(御許
 可命令)ニ付田(畑)(何々)ニ變換仕度候
 間民有地第一種ニ組替相成度圖而相添ヘ
 此段相願候也
 右(管理者)地主

年月日

市町村長何 某某
 又ハ 何

縣知事宛

◎土地臺帳謄本請求書
 何 町 村

大字何々字何々何番
 一(田)(畑)反別若干

地價若干
 地租若干

右御下付相成度請求候也
 住所番地 右地主氏 名印
 年月日

縣知事宛

◎自家用料酒廢造御届

第何號
 一自家用料酒製造免許 何 之 誰
 右製造能在候處今般廢造仕候間鑑札相添
 へ此段御届候也
 右

年月日

何ノ誰

◎賣藥請賣願

一明瞭丹 右營業人 何 之 誰
 一何々
 一何々

右賣藥何方今般受賣仕度依テ別紙營業者
 免許ノ指令寫並約定書相添此段奉願候也

年月日 縣郡町村大字番地 請賣願人 誰
 縣知事宛

◎荷積車御檢印願

(人力車荷積馬車)
 縣郡町村大字番地

一荷積車(人力車)壹輛 何 某
 右新調候ニ付御檢印御打渡被成下度此段
 奉願候也

年月日 右 何 某
 縣知事宛

◎耕作車御檢印願

郡町村大字番地 何之誰

一耕作車壹輛
一耕作車ノ義ハ車稅則ヲ遵守シ農具及肥料ヲ自宅ヨリ耕地ヘ又耕地ヨリ諸作物農具等自宅ニ運搬スル外他ニ一切使用不仕候間免稅御檢印御打渡被成下度此段奉願候也

年月日 右 何ノ誰

縣知事宛

◎煙草營業願

縣郡町村大字番地 營業場

一煙草製造
一煙草仲買
一煙草小賣
右營業仕度候間免許鑑札御下渡被成下度此段相願候也

年月日 縣郡町村大字番地 何之誰

縣知事某殿

◎煙草仕入 鑑札下附願

(製造營業ニハ證約狀ヲ添願出ヘシ)
縣郡町村大字番地 製造
仲買營業人何ノ誰 小賣
一煙草仕入 出賣 鑑札 何枚
此携帶人 何ノ誰

右鑑札御下渡被成下度此段奉願候也

年月日 右 何ノ誰

縣知事宛

◎菓子營業願

縣郡町村大字番地 營業場

一菓子 小賣
一菓子 卸賣
一菓子 製造
右營業仕度候間免許鑑札御下渡被成下度

此段相願候也

縣郡町村大字番地

年月日 願人 何ノ誰

知事宛

◎開業届

何郡何村大字何々番地 何 某

何々トハ酒類受卸小賣、卸小賣、仲買商、米雜穀商、質屋古物商、芝居其他興行料理店、旅人宿、又ハ鍛冶職、大工職、左官等ノ業名ヲ云フ

但一ケ年間見積リ(商金高)高何又此(資本金何程)(何斗絞幾栖)(弟子又ハ雇人幾人使用)(壘幾個)(網長幾間)

(乘組人員何人)(何々)

右ハ今般開業仕候間此段御届仕候也

年月日 右 何 某

郡市長宛

(第三號書式)

◎興行御届

何郡何村大字何々番地

一演劇(又ハ何々興行) 何 某
但シ木戸錢(大人何錢) 中錢何錢
小人何錢) 日數何日間
右ハ來ル何月何日ヨリ願書ノ興行仕候間此段御届申上候也

年月日 右 何 某

郡市長宛

(第四號)

◎移轉廢業御届

何郡何村大字何番地

一何々 何々トハ卸小賣商又ハ何 某
ハ職工ノ業名ヲ云フ) 何 某
右ハ從來頭書ノ營業仕居リ候處今回何々(何々トハ轉居先ノ前名 又ハ廢業ノ事故ヲ云フ)轉居(廢業)候ニ付此段御届仕候也

年月日 右 何 某

郡市長宛

(第五號)

◎鑑札書換(再渡)願

一何々免許鑑札 何郡何村大字何々番地
 何 某
 右頭書ノ御鑑札相受營業仕居候今回何々
 (何々トハ改名 轉居失却毀損等ノ事故ヲ
 云フ)御書換(御渡)被下度此段奉願候也
 年月日 右 何 某

郡市長宛

◎質屋營業又ハ改名、代ノ義御届

郡町村大字番地身分
 右ハ質屋營業又ハ(從來質屋營業罷在候
 處今般嗣子某(家名相續仕)又ハ(某ト
 改名)又ハ(何所ヨリ肩書ノ地へ轉居營
 業)仕度段何警察署へ出願候處別紙寫ノ
 通リ御許可相成候間此段御届申上候也

年月日

郡長宛

◎水車新設ノ義願

何郡何村大字何地内 郡村大字番地
 番 大地目反別 願人 何 ノ 誰
 此内敷地何拾坪
 但シ搗臼何個 据付ノ見込
 (粉挽器械壹組又ハ何組)
 右地内ニ水車新設仕度候ニ付隣地へ協議
 ニ及ヒ候處聊カ支障ノ筋無之候ニ付別紙
 繪圖相添へ此段奉願候也
 年月日 右

右

願人 何 何 何 何 何 誰
 隣地主 何 何 何 何 何 誰
 全 何 何 何 何 何 誰
 保證人 何 何 何 何 何 誰
 郡長宛 全 何 何 何 何 誰

備考

一本願ハ永利上最モ影響ヲ及ボス事件ニ
 付大字部内一同ヨリ異議ナシトノ上申書
 ナ郡長へ捧呈スヘシ
 一町村長ノ奥書調印ヲ要ス

◎種穀料御給與願

郡町村大字番地 誰

一金何圓

一人員何人

一耕耘地反別

畑反別何程

此種麥何斗

此代金何程

田反別何程

此代金何程

地方稅何程

所有地反別

地價金何圓

小作反別何程

右ハ何月何日火災(或ハ水難)ニ罹リ種穀
 悉皆燒失シ播種差支難溢罷在候間前記之
 種穀料御給與被成下度保證人連署此段奉
 願候也
 年月日 右 何 何 何 何 誰
 保證人 何 何 何 何 誰
 郡長宛 保 何 何 何 誰

◎入社申込書(用紙半紙)

貴社報國恤兵ノ主義ニ協同入社致度候條
 宜シ御取斗へ有之度候也
 現住所何縣何郡村大字番地
 年月日 何 某
 日本赤十字社御中
 追テ本文入社ノ上ハ本社保續金トシテ壹
 ケ年金何圓ツツ出金可致候也

警察署及裁判所ニ要スル諸願届書式

◎告訴狀

何縣市(郡)町(村)番地
 告訴人 何 某
 何縣市(郡)町(村)番地
 被告訴人 何 某
 (何々事件ノ告訴何々トハ罪名ヲ云)

據充分ナル者ト被存候
 右等ノ事實ト證據トニ依リ刑事訴訟法第
 四十九條ニ依リ此段告訴仕候也
 年月日 右 何 某
 何裁判所檢事(何警察署長)
 官姓名殿

一何年何月何月被告訴人某ハ何々ノ場所
 ニ於テ某ニ向ヒ何々ノ兇行ヲナシタリ若
 クハ何所ニ於テ加害者ハ何々ト言ヒ自分
 カ得持セシ棍棒ヲ強奪シ頭部及ヒ右肩胛
 骨中部ヲ乱打シタリ(凡テ加害ノ模様原
 因等詳記スヘシ)

證據

一右等ノ證據ハ犯罪ノ用ニ供シタル棍棒
 (或ハ何々等犯罪ノ用ニ供シタル物件ア
 ラハ各明示スヘシ)若クハ右ノ現場ヲ目
 撃シタル某々及ヒ兇行者ヲ引連レ去リシ
 某々ノ類)及ヒ別紙醫師診斷書ニ依リ証

一前項ノ被告アリシトキハ其現場ヨリ直
 接又ハ代人ヲシテ口述若クハ書面ニテ最
 寄リ巡查駐在所或ハ警察署ヘ申報スレハ
 現行犯トシテ取扱ヲナス故急速申報スル
 方得策ナリ何トナレハ現行犯ハ證據明白
 ニシテ殊ニ犯人モ現場ニ存在スル故ニ機
 ニ臨ミ變ニ應シ速ニ之ヲ逮捕セサルヘカ
 ラサルニ反シ多少ノ時間經過スレハ事既
 往ニ屬シ非現行犯タルヲ以テ事實ヲ探
 シ然ル後犯罪ノ證據明白トナル時ヲ待ツ
 テ之ヲ逮捕スヘキ等緩急ノ區別アリ但シ
 取扱ハ緩急アルト雖モ刑罰ニ輕重ナシ看
 客乞フ専門ノ書ニ縊テ參照アレヨ

診斷書

何縣郡町村大字番地身分職業
 何 某
 年 齡
 右ノ者何年何月何日何所ニ於テ診斷ヲ遂
 シル所何々傷何ヶ所(顛頂骨ノ縫合面ニ
 於テ長サ何寸深サ骨ニ達スルノ突傷何ヶ
 所)又ハ何所何部ニ於テ長サ何寸巾何寸
 及傷壹ヶ所)而シテ患者ハ人事不肖ニシ
 テ前後時ノ自覺ヲ開診スル能ハサルモ出
 血量脈損沈靜体温高進加之何傷ハ致命
 傷ナルヲ以テ全愈期シ難キモノ(或ハ何
 週間引續キ治療セハ全癒スル者)ト及診
 斷候也
 年月日

縣郡町村大字番地
 醫士 何 某

告發狀

何縣何郡何村番地身分職業
 告發人 何 某
 何縣郡町村大字番地身分職業

被告人 何 某

右被告人何某ハ何々ノ規則ニ違背シ何罪
 ナ犯シタルニ依リ左ノ事實ヲ摘記シ告發
 仕候
 一何年何月何日被告人某ハ何所ニ於テ何
 ヲノ所爲ヲナシタリ又(ハ被告人某ハ
 狩獵規則第四條ニ違背シ御獵場若クハ
 墓地公園、社寺、境内ニ於テ狩獵シタ
 リ)ノ類等犯罪ノ原因模様等詳細明記
 スヘシ
 右等ノ事實ナルヲ以テ刑事訴訟法第五十
 三條ニ依リ及告發候也
 年月日 告發人 何 某
 何裁判所檢事(警察署長)
 官姓名殿

盜難申報書

縣郡町村大字番地身分職業
 一金何圓
 何 某

內 壹圓紙幣何枚 壹錢銅貨何枚 五錢白銅何枚等詳細記載スヘシ

一 絹 又ハ木綿等ノ男單衣物或ハ何枚
但シ何色何縮新古其他袖口襟又ハ裏等ノ種類紋アレハ紋等詳細ニ記載スヘシ

此代金何圓何拾錢

一 器物 何々
但シ何々

一 米穀 此代金 何斗何升

通計代金何拾圓

右ハ何年何月何日用向有之家内一同何所某方へ罷越シ同日何時頃歸宅)或ハ何月何日何時頃家内一同寐臥翌朝起見レハ何々々)候處勝手口ノ錠ヲ捻切リ(或ハ玄關ノ戸ヲ外シ何々々)開放シ有之ニ付不審ト存シ家内取調候處何々ニ入置タル前書ノ品々見當リ不申候間盜賊ノ所爲ト存候ニ付此段申報仕候也

年月日 警察署長宛 右 何 某

縣郡町村大字番地

一 金品目錄 (盜難申報書ニ全シ)
右ハ何年何月何日午后(午前)何時頃私宅へ面部ヲ何ニテ包ミ拔刀(或ハ出刀庖丁竹木棒何々ヲ携ヘタル男何何勝手口(或ハ表雨戸ヲ毀シ又ハ壁ヲ切り或ハ錠ヲ捻切リ)ヨリ押入私(或ハ妻子又ハ雇人來客等)ノ寐間ニ至リ聲立候ハ、可切殺ト申威シ何々ノ趣ヲ申聞(其言舌何國言葉ト思料セシヲ認ムヘシ)家中ヲ搜シ何々ニ入置タル前書ノ物品(或ハ金錢米穀等ノ類)ヲ奪去リ候間(若シ賊ノ棄置品アラハ其品相添フヘシ)別紙人相書相添ヘ此段申報候也

年月日 警察署長宛 右 何 某

① 人相書

男或ハ女 何年位 何尺位
丈 何尺位 何瘦セタル方
肉 太ク或ハ長キ方
顔 丸キ或ハ赤黒或ハ何々
色 青或ハ散髪
頭 結髪或ハ尖キ何々
髮 細ク或ハ太ク何々
眼 細ク或ハ太ク何々
眉 高ク或ハ低シ
鼻 大或ハ何々
口 揃ヘタル或ハ何々
齒 並或ハ何々
耳 サヒレ或ハ高シ又ハ國
音聲 ナマリ又ハ何々
一 疵所 有無 但シ有之トキハ
一 痘痕 全上 其ケ所
一 着用衣類 色縞柄其品ノ種類或ハ性質ハ何々 但シアルトキハ
一 特徴 有之 其ケ所

右之通りニ御座候也

② 失火申報書

縣郡町村大字番地身分職業

一 居室壹棟(或ハ何棟)燒失 何 某
但問口何間興行何間 何 某
一 類燒 何 某

右ハ何年何月何日午前(後)何時頃家内一同寐臥居候處居宅何ノ方向ニ火聲相聞へ驚キ起出見タルニ家屋一圓火焰ニ相成リ(或ハ何所ヨリ何所へ燃(移リ)候ニ付高聲ニ呼立テタルニ家内ノ者ハ勿論近隣ノ者打寄リ消防致シ候へ共遂ニ難消止前書ノ通り燒失仕リ(或ハ消止)候依テ火災ノ原因ハ取調候處居宅ニ接シタル物置ヨリ(或ハ何ノ所へ)差置タル藁灰ヨリ發火致シ候義ト被存候尤モ人畜死傷無御座(或ハ何死傷有之)此段申報候也

年月日 警察署長官氏名殿 右 何 某

備考

右ノ外各種ノ災害ニ罹ルトキモ此書式ニ
做フヘシ

宅地境界線ヲ引キ家屋ノ有形ヲ明記シ燒
失ト半燒或ハ不燒等明細圖ヲ添付スヘシ

◎旅人宿 又ハ下宿屋 宿營業願

私義何郡何町村大字何々番地ニ於テ旅人
宿營業仕度候間御免許被成下度別紙建物
坪數及ヒ間取明細圖相添ヘ此段奉願候也

年月日

原籍寄留身分

姓名 年 齡

營業者未丁年ナルトキハ後見人連署スヘシ

警察署長宛

◎料理店營業願

何郡何村大字何々番地

身分職業

何 某

私義肩書ノ地ニ於テ料理店營業致度候ニ
付御免許被成下度此段奉願候也

年月日

所轄警察署宛

何 某

◎質屋營業又ハ取締鑑札
御書換御下附ノ儀願

郡町村大字番地身分

何 之 誰

右ハ質屋取締條例及ヒ本縣質屋取締細則
ヲ遵守シ質屋營業仕度候間願意御聞届質
物臺帳ヘ御認印ノ上取締鑑札御下付被下
度此段奉願候又ハ(從來質屋營業罷在候
處今般嗣子某ヘ家名相續仕リ)又ハ(某ト
改名)又ハ(何所ヨリ肩書ノ地ニ轉居)又
ハ(何年月日何々ノ事由ニヨリ取締鑑札
亡失)候間御鑑札御書換又ハ御下附被下

度(鑑札書換ノ節ハ舊鑑札返納ト記ス)此
段奉願候也

年月日

右

取締 何ノ誰

警察署長姓名殿

◎古物商營業願

郡村大字番地身分

何 某

一何々營業

兼業スル者ハ其種類ヲ列記スヘシ

右ハ古物商取締條例及本縣古物商取締細
則ヲ遵守シ前書ノ通り古物商營業仕度候
間願意御聞届ノ上取締鑑札御下渡被下度
此段奉願候也

年月日

右

取締 何 某

警察署長姓名殿

◎古物商行商ノ義願

郡村大字番地身分

一何々營業

何 某

右者私雇人ニ有之候處古物商取締條例及
ヒ本縣古物商取締細則ヲ遵守シ古物行商
致度候間取締鑑札御下渡被下度此段奉願
候也

年月日

郡村大字番地身分
右雇主 古物商何ノ某
取締 何ノ某

警察署長姓名殿

◎演劇(其他何々)興行願

何郡何村大字番地身分
職業興行主或ハ興行總代
何 某

年 齡

右者當大字部落風祭り(鎮守祭典)ノ爲メ
字何々何地ニ於テ(或ハ鎮守社内)本月何
日午前何時ヨリ午后何時迄放樂芝居(木
戸)興業仕度候間御許可被成下度別紙俳
優鑑札寫シ及ヒ興行仕組書相添ヘ此段奉

第二款書式

五百六十四

願候也

年月日 右

何 某

所轄警察署長姓名殿

備考

一放樂芝居ノ如キハ免稅トス木戸興行ハ其木戸錢高ニ依テ課稅ス所轄警察署ノ許可ヲ得テ後郡市役所へ開業届ヲナスヘシ

銃砲器買取手續

●獵銃砲器買取手續ハ第一號書式ノ如キ賣渡人ヨリ賣渡證書ニ受取リ其寫シ及第二號書式ノ如キ獵銃買取届ヲ地方長官宛ニテ所轄警察署へ差出シニナレハ夫レニテ買取手續ハ濟ムナリ何人ナリトモ他ニ面倒ナル手續更ニナク買受能フ者ナリ且一人ニテ何挺ナリトモ買受得ルモノナリ ●第一號書式ハ銃籍ニシテ從來ノ證トナルヘキ者へ藏シ置クヘシ

●護身用拳銃買入ノ節ハ第三號以下ノ書類ニテ所轄警察署(或ハ分署)へ出願スレハ免許手形及ヒ彈藥買入證ヲ財產ノ有無身分ノ高下ニ拘ラス誰人へモ直チニ下附サル、モノユヘ右ノ許可證ニ通トモ銃砲賣捌店へ差遣シ買受ルモノナリ ●彈藥ハ附屬ノ外餘分ニ入用ナルトキハ火藥取締規則第十條ニヨリ一回五百(三八)彈藥ハ彈藥中最大ナルモノナレトモ其火藥容量五百發ニテ百發内外ナリ)發マテハ許可ニナルナリ其以下ハ買取人ノ隨意トス ●第四號書式彈藥買取願ニ火藥容量ヲ要スル節ハ五十發ニ付貳拾分(一發四分ノ割合ヲ以テ記スヘシ) ●銃砲賣渡證

第一號書式

銃砲賣渡證

一何々國製何々獵銃

荷 挺

名稱何々獵

右銃砲正ニ御賣渡申候也

何縣何郡何村大字番地

年月日

銃砲火藥免許商何ノ誰

何 某 殿

第三號書式

獵銃買取御届

一何々獵銃

何 挺

右ハ今般縣何郡何村何番地銃砲火藥免許商何某ヨリ買取候間此段連署ヲ以テ及御届候也

住所族籍

年月日

名

府(縣)知事何某殿

但シ 東京府ハ警視總監
北海道ハ長官宛

第三號

銃砲買取願

一外國製ピストル銃

何 挺

右ハ今般護身用ノ爲メ何縣何郡何村何番

地銃砲免許商何某ヨリ買取度候間何卒御許可ノ上免許手形御下附被成下度此段奉願上候也

住所族籍

年月日

年 名 齡

縣知事何某殿

第四號

彈藥買取願

一外國製ピストル銃用彈藥

何 發

右ハ今般護身用ノ爲メ何郡何市何番地火藥免許商何某ヨリ買取度候間何卒御許可被成下度此段奉願候也

住所族籍

年月日

年 名 齡

何々警察署御中

狩獵免狀下付願

郡村大字番地

身分職業 何 某

第二款書式

五百六十五

一散彈銃 壹挺 年 齡
 或ハ 一火繩銃 壹挺
 但シ玉匁何匁
 右銃砲ヲ以テ(乙種職獵)乙種遊獵仕度候
 ニ付御許可被下度最モ狩獵規則第廿壹條
 ノ御處分相受候事無之候間鑑札御下渡被
 下度此段奉願候也
 年 月 日 右 何 某
 知事何ノ誰
 備考
 一本願ハ所轄警察署へ捧呈スルモノナリ
 免許料金壹圓ハ願書へ登記印紙ヲ貼用納
 付スヘシ散彈銃ハ玉匁ヲ要セス狩獵規則
 第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルトキハ其年
 月日ヲ詳記スヘシ同條ノ處罰ヲ受ケタル
 者ハ其効力ヲ失ス
 ◎銃砲讓與御届

何郡何村何平民何 某
 讓與人 何 何 某
 何郡何村何平民何 某
 讓受人 何 何 某
 一散彈銃(火繩銃) 何 挺
 (但シ玉匁何匁)
 右讓與人某ニ於テ是迄所持致シ來リ候處
 今般讓受ノ義約束相整へ本月何日讓受仕
 候間此段連署ヲ以テ及御届候也
 年 月 日 右 何 某
 知事 宛 何 某
 備考
 一此届書ハ所轄警察署へ捧呈シ銃籍ノ書
 替ヲ求ムヘシ讓受渡ヲ締結シタル日ヨリ
 十日以内ニ届出サルモノハ科料ニ處セラ
 ル讓受渡人所轄警察署ヲ異ニスルトキハ
 双方へ届出ヘシ
 ◎威銃免許願

何郡何村大字番地身分
 一和銃 何 挺 何ノ誰 何年何ヶ月
 一洋銃 何 挺 何ノ誰 何年何ヶ月
 右ハ私所有(小作)田或ハ畑地鳥獸ノ被害
 不少ニ付何月ヨリ何月迄何ヶ月間威銃御
 許可被成下度依テ別紙被害地反別及植物
 鳥獸名調書並ニ圖面相添へ此段奉願候也
 年 月 日 右 何ノ誰
 郡 長 宛
 ◎被害地反別及植物鳥獸名調書
 何郡何村大字何
 番字
 一田反別何反何畝步
 是ハ何月中旬中稻或ハ陸稻播種爾後何
 月間何何鳥獸害ヲ爲ス又ハ結實ノ候何
 月ヨリ收獲ノ候何月迄何々鳥獸害ヲ爲
 スノ類都テ植物及ヒ鳥獸名並ニ被害ノ
 季節等ヲ詳記スヘシ

何番字何
 一林反別何町何反步
 是ハ何月中旬ヨリ天蚕飼育又ハ杉檜苗
 等播種以下同上
 以下如斯一筆限リ記載スヘシ
 右之通り候也
 年 月 日 何 某
 ◎實地略圖
 南私林
 東何番 田何反何畝步 何々播種 田 西
 原何番 北官林
 野何番 南私林
 東何番 林何町步 天蚕飼育 畑 西
 田何番 北官林
 ◎遺失物御届
 此圖面ハ可成四鄰ノ景況ヲ摸寫スヘシ

何郡何村大字何々番地

身分職業

何 某

一黒皮蓋口 一ヶ
但シ紐付左ノ物件在中

壹圓紙幣何枚

貳拾錢銀貨何枚

何證 何通

右者何地某方へ用向有之候ニ付右蓋口懷中ノ上明治何年何月何日何時頃ヨリ出頭中何地ニ於テ風ト懷中ヲ探リ見ルニ囊キニ懷中シタル蓋口無之ニ付早速立戻リ捜索スルニ更ニ見當リ不申右ハ自宅ヨリ何地ノ間ニ於テ遺失仕候モノニ御座候間此段御届申上候也

年月日

警察署長宛

紛失御届

何郡何村大字何々番地

一寶印 壹個

身分職業

何 某

何シ水牛丸印ニシテ自分姓名彫刻右ハ本年何月何日ノ内ナリキ何々用ノ爲メ使用候儘自宅勝手座敷單笥(又ハ何箱)ニ入レ置候處本日使用ニ際シ右ノ個所開キ見ルニヨラスモ右印影ハ現存セサルニ依リ若シモ他ニ入レ置キタルニハ非サルカト篤ト取調候へ共見當不申紛失候モノニ相違無之候間此段御届申上候也

年月日

警察署長宛

得遺物御届

何郡何村大字何々番地

身分職業

何 某

一黒皮蓋口 壹個
但シ紐付左ノ物件在中

壹圓紙幣何枚
貳拾錢銀貨何枚
一何證 何通

右ハ明治何年何月何日何地へ用向有之出頭ノ途次何村大地何々ト稱スル道路ノ片側ニ於テ發見拾得候ニ付現品相添へ此段及御届候也

年月日

警察署長宛

家出人搜索御願

何郡何村大字何々番地

身分職業

某ノ妻又ハ長男長女雇人ノ類

何 某

右ハ何年何月何日夜何時頃近隣某方へ用事有之候ニ付書狀ヲ持參爲致(又ハ入浴致サントテ罷出)候處全夜歸宅不致候故不審ト存シ心當リ今日迄相尋子候へ共見

當リ不申就テハ失踪候儀ト被考候(又ハ本人ハ平常出京云々ノ事友人間ニ於テ相話シ居リ候哉ニ付同地方ニ徘徊スルヤ共存知出京仕リ相尋子候へ共見當リ不申)

本人歸宅不致候テハ家政上困難ノ点不尠サルノミナラス金錢取引上實ニ差支候間御搜索被下度別紙人相書相添へ此段奉願候也

年月日

警察署長宛

人相書

何郡何村大字何々番地

身分職業

何 某

一身丈何尺位 肉太リタル方 頭散髪又ハ結髪ニテ少シク白毛ヲ生ス 目耳口並顔丸キ方痘痕少シアリ 色白キ方 齒白

又ハ染アリ 特徴左ノ足脛ニ何疵アリ
出立當時ノ着衣及ヒ所持品

一黃豎縞八丈袷、越後糸織蠟豎縞袷、博多
黑無地帶、黒八丈丸ニ三ツ折ノ紋壹ツ付
羽織、黒山高帽子、甲斐絹蝙蝠傘、龍頭卷
金皮時計印一八六五號等各壹点金參百五
十三圓但シ壹圓五圓拾圓紙幣取集メ其他
カハシ風呂敷等モ持參セシモノト思料ス
右之通り相違無之候也

◎身元保證金上納書

一金何圓

右ハ人力車營業仕度候ニ付身元保證金ト
シテ上納仕候也

年月日 何組人力車營業取締
族籍寄留 氏名
縣知事宛 氏名

◎碑表建設願

郡市町村大字何々番地
身分 氏名

右ハ祖父又ハ親戚若クハ舊友某何所何墓
地ニ埋葬有之處今般該墓地へ(又ハ某ノ
事蹟ヲ表スル爲メ墓地外何所へ)別紙碑
表建設致シ度候間此段奉願候也

警察署長姓名殿

年月日 氏名
前書之通り願出ニ付調査候處相違無之ニ
付與書調印候也

◎碑表縦何尺何寸

誌銘傳替等其碑表ニ刻スル全文ヲ表裏左
右ニ別テ記載スヘシ

◎斃馬御届

一牡馬一頭 何郡何村大字番地 某
右者農馬(又ハ乘馬)トシテ蓄致シ來リ養

候處何日ヨリ發病ノ徵候ニ付治療差加ヘ
居リ候處今何日何時斃馬候ニ付別紙獸醫
ノ診斷書相添ヘ此段及御届候也

年月日 何 某
右 何 某
何警察署長官氏名殿

備考

埋没若クハ燒棄解体前獸醫ノ診斷書ヲ添
ヘ所轄警察署へ届出サザルモノハ五十錢
以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラル
但シ傳染病ハ同則ニ依ル

◎瘋癩人届

何郡何村大字何々番地
身分戸主同某(續柄)
何 某
年 齡

右者何年何月頃ヨリ發狂之徵有之候ニ付
種々治療差加ヘ來リ候處漸々全治ノ模様
相見ヘ候間益々治療仕候處昨今ニ至リ再

發仕候間明治何年何月縣令甲第何號瘋癩
人取締規則第何條ニヨリ別紙醫師診斷書
相添ヘ最近ノ親戚以連署御届申上候也

◎診斷書

年月日 (戸主) 何 某
親戚 何 某
親戚 何 某
所轄警察署長氏名殿 某 某 某
何郡何町村大字何々番地
平民農某何 男
何 某
年 齡

右ハ後大性瘋癩症ニシテ其發作時ニ當テ
ハ自他ノ危害ヲ來スナキヲ保シ難シ依テ
豫メ之レカ適當ノ處置ヲ要スヘキ者ト及
診斷候也

年月日 何郡何村大字何番地 某
醫士 何 某

◎變死人届

何郡何村何々番地
身分職業

(戸主)何某何男

何 某 年 齡

右何某儀ハ明治何年何月頃ヨリ發狂候ニ付爾來何郡村大字何々番地醫士何ノ誰ノ治療相受居候處目下農業繁多ノ秋ニ付看護ノ儀ハ妻某ニ申聞ケ自分ハ早朝ヨリ家族一同ト俱ニ大字何々字何ト稱スル田地ニ罷越シ耕耘シ居リ候處明治何年何月何日後后何時妻某何處ニ馳セ來リ實父母兄弟姉妻某儀自殺傷セシ旨申聞ルニ依リ直チニ歸宅候處某儀咽喉ニ突傷ヲ負ヒ身体血ニ塗レ變死云々致居ルニ付直チニ抱キ上ケ疵口ハ有セタル手拭ニテ括リ猶ホ介抱致シ居リ候處隣家某等馳セ來リ候ニ

付不取敢同人ヲシテ御届申上候也

年 月 日

何 警察署長殿

◎檢案書

何郡何村何番地

族籍職業

何 某

一創傷壹ヶ所

但第三頸椎ノ部位ニ於テ

氣管食管及ヒ右側總

頸動脈ヲ切斷ス

右被命檢案何年何月何日何郡何村何番地何ノ某方ニ於テ檢案ヲ遂クル所傷所ハ前記ノ致命傷ニシテ看護人參考上ノ間診及ヒ傷狀ヲ診査スルニ發狂ノ爲メ自殺シタルモノニ相違無之ト及檢案候也

何縣何郡何村大字何番地

醫士 何ノ誰

明治年月日午前八時始メ

何年何月何日午後九時終ル

何警察署長(何裁判所)

官氏名殿

◎人殺傷申報書

縣郡村大字番地身分職業

何 某

右ハ何年何月何日午前(后)何時頃家族一同寐臥(或ハ夜業致シ居リ又ハ何々)候處何郡何村何某(或ハ何人トモ知レサル年齡何才位ノ男一人又ハ何人)門戸ヲ押開ケ白刀ヲ携サヘ突然這入り來ルヤ否無言(或ハ何々ト申聞ケ)ニテ長女某ヲ或ハ女子雇人ヲ殺害シ(或ハ負傷セシメ)逃走候ニ付人相書相添へ此段申報仕候也

年 月 日

警察署長宛

右 何 某

人相書ハ強盜申報書ニ付帶セル書目ニ做

◎民事訴訟書類ハ凡テ用紙美濃紙トス

◎貸金支拂命令申請書

縣郡町村番地身分職業
債權者 氏 名
縣郡町村番地身分職業
債務者 氏 名

印紙

一金何圓何拾錢 元金

一金何圓何拾錢 利子

明治何年何月ヨリ何年何月マテ

一金何拾錢

內金何錢 書記料金何錢 日當金何錢

印紙料金何錢 手數料金何錢 送達費

合計金何圓也 支拂命令請求高

債務者ハ明治何年何月何日限り右金額ヲ

辨償スヘキ處期日ニ至リ支拂チナササル

ニ依リ支拂命令ヲ發セラレ度候也

年 月 日

債權者 氏 名

右 氏 名

何區裁判所
判事何某殿

一支拂命令申請人ニ於テ債務ヨリ異儀ノ
申立アリタルトキハ左ノ式ニ倣ヒ名刺ニ
訴訟物ニ相當スル訴訟印紙ヲ貼用シテ差
出スヘシ

◎名刺式

民事第何部 何縣何郡村番地身分職業
年度(ハ)何號 原告 氏 名印

印紙

何縣何郡何町村番地
右訴訟代理人何 某

被告何縣何郡町村番地身分職業何某外何
人ニ係ル何々ノ事由(一訴ヲ起ス事由ヲ明
ラカニ記ス例令ハ何年何月ニ金何圓ヲ貸
與シ返済期日ナル何年何月何日ヲ過キ返
濟セサルノ類)ニ基キ何々(請求ノ目的物
ヲ掲ク例令ハ元利金何程ノ類)ヲ請求ス
ル貸金事件ニ付年月日出頭

◎仮執行宣言申請書

貳拾錢
印紙

(債權者及債務者記載)
例支拂命令ニ全シ

請求金額

一金何圓

支拂命令申請書

一金何圓

仮執行申請費請求

内譯 何錢日當或ハ書記料ノ類
合計金何圓錢 何仮執行請求高

債務者ハ年月日送達ノ資金支拂命令ニ對
シ相當ノ期日内ニ異議ノ申立ヲナサス亦
夕辨濟ナサザルニ依リ仮執行ノ宣言被成
下度此段申請仕候也

年月日

右 何 某

何裁判所
判事某殿

本願ハ支拂命令ヲ送達後裁判所ヨリ下付

セラル執行命令ヲ添へ出願スヘシ

◎有体動産差押申請書

不動産仮處分
(原告被告記載ノ例ハ訟狀ニ全シ)

仮處分ノ物件

何郡何村大字何番字何々
一地目反別 何程 持主 何 某

(以下倣之)

右被告某ニ對シ何年何月何日賣渡シ全年
何月何日迄ニ金圓調達スルトキハ之レヲ
買戻シ得ルノ約ナルニ被告ハ該買戻シヲ
肯ンセサルニヨリ本日地所買戻ノ訴ヲ御
廳へ提起仕候へ共若シ該地ヲ公賣等被致
候テハ訴訟ノ目的ヲ失シ候ニ付(若クハ
債務者ハ他ノ負債ノ爲メ財産隠匿ノ模様
有之候間)本訴訟結了ニ至ル前記ノ地所
仮處分ノ御命令相成度(債務者所有ノ有
体動産差押ノ御命令相成度)此段申請仕

候也

右原告(若クハ)

年月日 代理人 何 某

何裁判所
判事何ノ誰殿

◎強制競賣申立書

(債權者及債務者記載)
載例支拂命令ニ全シ

貳拾錢
印紙

請求書金額

一金何圓

支拂命令申請高

一金何圓錢

仮執行申請費用

合計金何圓何錢

強制競賣費用

何郡何村大字何地内

強制競賣物件ハ右ノ如シ

字番一地目反別何程

持主 何 某

一何々 (衣類器物何々ノ類)何点
若クハ

右ハ債權者某ヨリ債務者某へ係ル貸金催
促ノ事件ニ對シ附屬第壹號證ノ如ク執行
命令書下付相成ヌルニ付至急競買相成度
此段奉願候也

年月日 債權者 何 某
何裁判所 判事某殿

一備考 本文ハ三通ヲ要ス

◎濟口届

何年 何縣郡町村大字番地 某
(印)第何號 何縣郡村大字番地 某
債務者 何 某
右者何々事件今般示談濟口相成候間差押
物件御解放相成度此段御届申候也

年月日 債權者 何 某
何區裁判所 執達吏氏名殿

◎和解申立書

何郡村大字番地 何 某
申立人 何 某
何郡村大字番地 何 某
相手方 何 某
請求ノ目的 某

◎養子送籍請求願

一本人族籍氏名年齢
右本人ノ送籍アラン事ヲ請求ス

右者何年何月何日何郡村大字番地何某ノ
媒介ヲ以テ申立人方ノ養子ニ貰受タルモ
未々相手方ニ於テ送籍ナササルニヨリ速
ニ送籍アランコトヲ請求任候也

年月日 申立人 何 某
何區裁判所 判事某殿

◎旅費(日當)(止宿料)請求書
一金何圓何錢 旅費(日當)(止宿料)

内譯

金何錢
右ハ何年何月何日證入トシテ出頭日當
一度分但シ一度金五拾錢

金何錢
右ハ醫師(鑑定人)(通辨人)(翻譯人)ト
シテ出頭日當一度分(此金高ハ裁判所
ニ於テ定ム)

金何圓何錢
右ハ御呼出ニ付何年何月何日何縣何郡
何町(村)大字何出發何日何郡何町村大
字何所着里程何町一里ニ付金拾錢

金何錢
右ハ居村ヨリ何郡何町村大字何所迄里
程八里外ニ付何月何日何處止宿一泊金
五拾錢

右ハ某何々被告事件ニ付證人(參考人)ト

シテ出頭ノ旅費(日當)(止宿料)及請求候
也
年月日 何縣郡町村大字番地 何 某
何區裁判所 判事氏名宛

此請求書ハ三通ヲ差出スヘシ
一法律ニヨリ止宿料ヲ給スル場合ハ日當
ヲ給セス

代人願

何郡村大字番地 何 某
何郡村大字番地 何 某
右代人 何 某

右者被告何郡町村大字番地何ノ誰へ係ル
何々(貸金)請求事件ニ付出廷可致ノ處何
々ノ事故有之候間出廷致兼候ニ付右代人
親族(若クハ雇人)何之誰ヲ以テ訴訟ニ關

スル一切ノ件ヲ代理爲致度然ル上ハ全人ヨリ申立候事柄ハ後日ニ至リ決シテ異議申間敷候ニ付御認可被成下度別紙親族證明書相添へ此段連署ヲ以奉願候也

年月日

右 何 某

何裁判所 官氏名殿

◎親族證明願

何郡何村大字何々番地 身分職業

何ノ誰

右者私義何郡村大字番地何某ノ父(若クハ兄弟其續柄)ニ相違無之候ニ付御證明被成下度此段奉願候也

年月日

右 何ノ誰

市町村長氏名殿

◎委任狀

拙者義事故有之出廷難相成候ニ付何縣何郡何村大字何々番地何ノ誰ヲ以テ部理代人ト爲シ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事
一何郡村大字番地何ノ誰ニ對シ年月日金何圓ヲ貸與シタルモ返濟期日ヲ過キ償還セサルニヨリ何裁判所ニ出頭其貸金請求ノ訴ヲ提起シ及ヒ該件ニ關シ和解或ハ金錢授受ヲ爲ス一切ノ件
右代理ノ委任狀依テ如件

年月日

何郡何村大字番地 何ノ誰

◎御請書

何郡村大字番地

何某代人

何ノ誰

右者私事原告某ヨリ被告何ノ誰ニ係ル何

々事件ニ付(原告)某代人ノ儀御認可相成候ニ付テハ左ノ條項ニ違背不致候

一貳人以上ヨリ二件以上ノ事柄ハ受任致サス候

一身分限リノ處分ヲ請シ事無之候

右正ニ御請申候也

右原告若クハ被告誰

年月日 代理人 何ノ誰

何裁判所官氏名殿

◎訴狀

縣市(郡)町(村)番地身分職業

原告 氏 名

縣市(郡)町(村)番地身分職業

右訴訟代理人氏 名

縣市(郡)町(村)番地身分職業

被告 氏 名

(裁判所ヨリ四里以外)

(ナルトキハ距離幾里)

何々事件ノ訴

請求ノ目的

一何々(例令ハ元金何圓何錢)

一何々(例令ハ利金何圓何錢)

請求ノ原因

何々(例令ハ明治何年何月何日被告ニ金何圓ヲ貸與シ利子ハ百圓ニ付一ヶ月幾錢返濟期日ハ全年何月何日ト定メタリ然ルニ被告ハ返濟期日ヲ經過スルモ義務ヲ果サス

一定ノ申立

右ノ次第ナルヲ以テ被告ハ原告ニ對シ何々(例令ハ金何圓ヲ辨濟シ)且ツ訴訟入費ヲ負擔スヘシトノ判決相成度候也

證據方法

一何々(例令ハ貸金證書)

付屬書類表示

一 訴訟代理ノ委任狀 壹通
 一 法律上代理受權ノ證 壹通
 一 證書ノ謄本若クハ抄本 幾通

年月日 原告若クハ 訴訟代理人 氏 名
 何地方裁判所長 (若クハ何區裁判所)
 判事某殿

◎ 控訴狀 (裁判所ヨリ八里以外ナルトキハ距離幾里ト明示スヘシ)

何縣何郡村大字何々番地 身分職業
 控訴人 氏 名
 何縣何市町村番地 身分職業
 右訴訟代理人 氏 名
 何縣何郡村大字番地 身分職業
 被控訴人 氏 名
 何々事件ノ控訴
 判決ノ表示

何裁判所何部ニ於テ明治何年第何號何々事件ニ付何年何月何日何々トノ判決言渡アリ何年何月何日該判決ノ送達ヲ受タリ一定ノ申立
 右判決ノ全部若クハ何々部分ヲ廢棄シ何々ト判決相成度候也
 不服ノ程度及控訴ヲ爲ス旨ノ陳述
 右裁判所ハ何々ノ事實ヲ何々ト誤認シ(何々ノ訴訟手續又ハ何々ノ法則ニ違背シ)何々ト判決シタルハ不當ナリ依テ控訴人ハ右何々ニ付テハ服從スルヲ得サルヲ以テ控訴ニ及ヒ候也(若シ不服ノ事項數多アルトキハ條項ヲ分チ之ヲ記載スヘシ)

新事實(新ニ主張スル事實アルトキ) 一何々
 新證據方法(新ニ提出スル證據アルトキ) 一何々

トキ
 一 何々(證人何々ト記スルノ類)
 付屬書類ノ表示

一 訴訟代理ノ委任狀 一通
 一 法律上代理受權ノ證 一通
 但本項ハ控訴ニ至リ法律上代理ノ變更アリタル場合
 一 證書ノ謄本若クハ抄本 何通

右 控訴人(訴訟代理人) 氏 名
 年月日 氏 名
 東京控訴院(何地方裁判所長)
 判事某殿

◎ 答辨書
 (氏名記載ノ例ハ控訴狀ニ同シ)
 何々控訴事件ノ答辨
 一定ノ申立

控訴人ノ申立ハ其理由ナキヲ以テ控訴棄却相成度候也

新事實(新ニ主張スル事實アルトキ) 一何々
 新證據方法(新ニ提出スル證據アルトキ) 一何々
 一 何々(附帶控訴ヲ提起スルトキハ控訴狀ノ例ニ準ス)
 附屬書類ノ表示

一 訴訟代理委任狀 一通
 一 法律上代理受權ノ證 一通
 但シ本項ハ控訴ニ至リ法律上代理ノ變更アリタル場合
 一 證書ノ謄本若クハ抄本 何通

右控訴人 氏 名
 東京控訴院民事第何部長
 (若クハ何地方裁判所何部長)

判事某殿

◎上告狀

何市(郡)町(村)番地

身分職業

上告人 氏 名

(裁判所ヨリ九里以外
ナルトキハ距離何里)

何縣何市町何番地

右訴訟代理人氏 名

縣市(郡)町(村)番地

身分職業

被上告人 氏 名

何々事件ノ上告

判決ノ表示

何裁判所何部ニ於テ明治何年(何)第何號
何々事件ニ付何年何月何日何々ノ判決言
辯アリ何年何月何日何該判決ノ送達ヲ受

クダリ

一定ノ申立

右第二審判決ノ全部若クハ何々ノ部分ハ
不服ナルニヨリ之ヲ破毀セラレン事ヲ請
求ス

理由

第二審裁判所カ何々ト判決シタルハ何々
ノ法則ヲ適用セズ若クハ不當ニ通用セシ
違法ノ判決ナリ(又該判決中何々ハ民事
訴訟法第何條ノ規定ニ違背シタル違法ノ
判決ナリ)(又該判決中何々ハ何々ノ法律
ニ違背シテ事實ヲ確定シ若クハ遺限シ若
クハ提出シタリト看做シタル違法ノ判決
ナリ)(若シ上告ノ理由數点アルトキハ條
項ヲ分チ之ヲ記載スヘシ)

附屬書類ノ表示

右及答辨候也

右

被上告人(若クハ訴訟代理人)

年月日 何 某

東京控訴院民事第何部

判事某殿

一訴訟代理ノ委任狀

壹通

一法律上代理受權ノ證

壹通

(但シ本項ハ上告ニ至リ法律上代理
ノ變更アリタル場合)

右

上告人(若クハ訴訟代理人)

年月日 氏 名

東京控訴院長

判事某殿

◎答辨書

(氏名肩書記載方上告狀ニ同シ)

何々上告事件ノ答辨

一定ノ申立

本件上告ハ之ヲ棄却セラレン事ヲ請求ス

理由

何々(附帶上告ヲ提起スルトキハ上告狀
ノ例ニ準ス)

右及答辨候也

右

被上告人(若クハ訴訟代理人)

年月日 何 某

東京控訴院民事第何部

判事某殿

◎登記ニ要スル諸願届書式

◎名刺

何郡何村大字何

地所登記簿閱覽願

此手數料金何錢

何郡何村大字番地

年月日 願人 何之 誰

◎改印届

郡村大字番地

印鑑 何ノ 誰

右は是迄使用致候印鑑欠損(磨滅)仕候間
前印鑑ノ通り改刻本月何日ヨリ使用仕候
ニ付此段御届申上候也

年月日 右 何ノ誰
郡村大字番地
保證人 何ノ某
全上 何ノ某
何區裁判所(何々出張所)
御 中

備考

一本文ノ場合ニ於テハ保證人二名以上ノ
連署ヲ要シ其保證人ハ必ス其登記役所ニ
印鑑證查ヲ受ケ捧呈シアル者ニ限ル一新
彫刻ノ印鑑モ最初ノ印鑑ヲ届クルト同様
身元役場ヨリ証查ヲ經タル堅五寸ノ紙片
ヲ添付スヘシ

◎名刺

郡村大字番地
(賣) 渡人何ノ誰
郡村大字番地
右代人 何ノ某
地所(賣買) 登記願
(讓與) 金何圓
此(賣買代) 價格
此登記料金何圓
年月日 町村大字番地
(買) 受人 何ノ誰
郡村大字番地
右代人 何ノ誰
備考
一讓受渡人共本人ナルトキハ各自認印捧
呈スル者ナリ
一代人ナルトキハ此書式ニ依リ本人ノ調
印ヲ要セス(凡テ代人ノ認メ方同シ)
一印鑑ハ身元役場ヨリ横一寸堅五寸(曲

尺(ノアツト紙ニ左ノ式ノ如ク証查ヲ乞
ヒ所轄登記役所へ捧呈シ置ヘシ其後改印
スルトキハ次頁改印届ノ書式ニ據ルヘシ
五寸

身元 郡村大字番地
役場 印鑑 何ノ誰
之 一 寸

◎委任狀

拙者義地所賣買(讓與)登記請求事件ニ付
郡村大字番地何ノ誰ヲ以テ部理代人ト相
定メ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

國郡町大字地内
番一何反別何步
右地所國郡村大字番地何某へ(又ハ何某
ヨリ)明治年月日金何圓ヲ以テ賣渡シ(讓
渡シ)買受(讓受候ニ付何區裁判所何(何
々出張所)ニ出頭其登記願ニ關スル一切

ノ件
右代理ノ委任狀仍テ如件

年月日 郡村大字番地
何ノ誰
備考
一壹筆ノ地所ヲ二名以上ニテ共同賣買讓
與ナスルトキハ本文ノ始メ拙者義ヲ拙者
共ト記載シ末又ノ氏名ヲ各自住所共明記
スヘシ

一出願ノ地所書入(質入)中ナルトキハ何
反步ノ左方ニ右地所ハ何郡何某へ書入中
ト記載シ調印ヲ買受人又ハ讓受人ニ在リ
テハ書人アルコトヲ了知スト認メ調印ス
ヘシ以上做之

◎地所賣渡(讓渡)証

國郡村大字番地
番一地目反別 持主 何ノ某

(每筆共列記スヘシ)
(右地所郡村某へ書入中)(承諾買受人印)

此賣渡代金何圓也

右地所何筆代金何圓ニテ賣渡シ其代金正ニ受取申候(又ハ地所何筆無代價ニテ正ニ讓渡シ)後日ノ爲メ証書仍如件

町村大字番地

年月日 賣渡人 何ノ誰

何郡村大字番地

何ノ誰殿

備考

此賣買(讓渡)証書謄本ハ正本ノ通り謄寫シ印紙ヲ貼用シタル個所ハ印紙ノ形式ニ画シ何ノ誰殿ノ次ニ(右正本ニ依リ謄寫仕候也)ト認メ其次ニ賣買人双方ニテ署名押印スル者ナリ
一凡テ登記願ノ謄本ハ右ノ如ク認ムヘシ

質入書入ノ如キモ勿論其証書ヲ其儘謄寫入シ本文ノ如ク認ムヘシ

◎名刺

郡村大字番地

負債主(質入主)何ノ誰

地所書入(質入)ニ付登記願

貸借金何圓

此登記料何圓

郡村大字番地

年月日 債主(質取主) 何ノ誰

◎委任狀

五厘 印紙

拙者義地所書入(質入)登記請求事件ニ付何郡何村大字何番地何某ヲ以テ部理代人ト爲シ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事
國郡村大字地内

字番地目反別何反歩

右地所(書入トシテ)何國何郡何村大字何々番地何某方ヨリ(又ハ何某方へ)明治何年何月何日金何圓借受(又ハ貸與)若クハ質入質取ノ類候ニ付何々區裁判所(何々出張所ニ)出頭其登記願ニ關スル一切ノ件

右代理ノ委任狀仍テ如件

郡村大字番地

年月日 何ノ誰

備考

一連借人在ルトキ、地目反別ノ下ニ持主記入スヘシ(証書モ做之)

一初行目拙者ノ下ニ其ノ一字ヲ加フ

◎地所書入(質入)金圓借用証

一金何圓也 但年利何割何分

此入地左ノ如シ

國郡村大字番地

字一何反別何反歩

印紙

右地所書入トシテ(質入トシテ)頭書之金何百圓正ニ受取借用仕候處明確也御返金ノ期限ハ來ル明治何年何月何日ト定メ右利子ハ歳々年末ニ無相違濟方仕リ期限ニ相成リ候ハ、元金及ヒ利子等聊カ無相違皆濟可仕候若シ萬々一ニモ本人ニ於テ儀務相盡シ兼候節ハ保證人ニ於テ悉皆引受辨償仕リ貴殿へ聊カ御損害相掛ケ不申候爲後日証書如件

年月日 町村大字番地

借用人 何ノ誰
保證人 何ノ誰

縣郡村

何ノ誰殿

備考

一証書謄本作製方前葉賣買証書ノ書式ニ依ル其他凡テ參照

一質入ハ地所質地証トシ双方ノ契約ノ締結シタル條件ヲ記載スル者ナルハ勿論ナ

ルカ故ニ茲ニ其大要ヲ示セリ

◎名刺

郡村大字番地
負債主 何ノ 誰

地所書入(質入)登記取消願

此手數料金五錢

郡村大字番地
年 月 日 債主 何ノ 誰

備考

一本文取消願ハ其雙方本人出頭スレハ此
名刺ニ證書(先ニ登記済アル書)證ノ表面
ニ(表書ノ金額元利正ニ受取候也)ト記シ
年號月日債權者ノ署名押印シタルモノ、
ニ證書ヲ捧呈スレハ可ナリ

◎委任狀

拙者義地所書入(質入)登記取消請求事件
ニ付何郡何村大字何番地何ノ誰ヲ以テ部
理代人ト相定メ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致
候事

國郡村大字地内

番一地目反別

右地所(書入)質入トシテ郡村大字番地何
ノ誰方ヘ(若クハ何某方ヨリ)明治年月日

金何圓貸與(借用)候處明治年月日元利

(質地ニ在リテハ元利ノ文字ヲ削除ス)返

金濟ニ付何々區裁判所(何々出張所)ニ出

頭其登記取消願ニ關スル一切ノ件ヲ處辨

スル事

右代理ノ委任狀依テ如件

年 月 日 郡村大字番地

備 考 何ノ 誰

連借人アルトキハ地所ノ下ニ持主記入ノ

事一初行拙者義ヲ拙者共議ト改メ連署ス

ル事

◎名刺

地所變更登記願

此手數料金五錢

年 月 日 何 某

◎地所變更登記願

何國何郡村大字何々番地内

○二千五百番 一畑八反七畝拾三步

○字何 二千五百番 一畑九反二畝十步

字何 内反別五畝二步 丈量増

右地所私所有ニシテ既ニ朱書ノ通り登記

相成候處明治二十一年十月二十二日地押

調査上前書墨書ノ通り訂正相成候ニ付變

更ノ登記被成下度此段奉願候也

何郡村大字番地

年 月 日 何 某

何區裁判所

何々出張所御中

◎名刺

何郡何村太字何々番地

遺産人 亡 何ノ 誰

地所 遺産相續ニ付登記願

建家 此筆何筆

年 月 日 何郡村大字番地 何 某

◎委任狀

拙者義地所變更登記請求事件ニ付郡村大
字番地何々ヲ以テ部理代人ト相定メ左ノ
權限ノ事ヲ代理爲致候事

何縣何郡何村大字何々地内

○二千五百番 一畑八反七畝拾三步

○字何 二千五百番 一畑九反二畝拾五步

字何 内反別五畝貳步 丈量増

右地所私所有ニシテ既ニ朱書ノ通り登記

相成候處明治二十一年十月二十二日地押

調査上前書墨書ノ通り訂正相成候ニ付何

區裁判所何々出張所ニ出頭其變更願ニ關

スル一切ノ件ヲ處辨スル事

右代理ノ委任狀仍テ如件

何郡村何大字番地